

## 『山上宗二記』の諸写本の比較研究(4)

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 明治大学教養論集刊行会 公開日: 2009-04-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 渡辺, 誠一 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10291/5084">http://hdl.handle.net/10291/5084</a>

## 『山上宗二記』の諸写本の比較研究（四）

渡辺 誠 一

### 諸写本の比較

一 石ノ事 昔ハ其数多シ 高麗鉢又ハ漆鉢ニ立る也 当世悉捨る 但此両石ハ名物成ニ依テいまた賞翫する人もあり  
石ノ事——土の薬（国図）、漆鉢——塗鉢（国学・国図・箒庵）、当世——当時ハ（国学・国図・箒庵）——当時（東  
芸・茶器・土屋家）、名物成ニ依テ——名物成に（国学）

一 残雪 本願寺門跡

此石様子五寸力 は、一寸八分 上へノ高サ一寸九分 黒石ニ高キ所ひくき所山ノ如ク在 其内ニ白キ石嶺に有 是  
ヲ残雪ト云也 但此石見不申候 旧説也

本願寺門跡——本願寺門跡ニ在（国学・国図・箒庵・茶器）——本願寺門跡在（土屋家）、此石様子五寸力——横五寸  
（国図）——此石の様子五寸（国図）——此石の様子五寸力（箒庵）——此壺様子五寸力（茶器）、は、一寸八分——は  
、二寸八分（国学・国図・東芸・茶器）——ハ、貳寸八寸（土屋家）、上へノ高サ一寸九分——高サ一寸九分（国学・  
国図・東芸・箒庵）——上へノ高サ一寸九分力（茶器）、黒石ニ——黒キ石にて（国図）——黒キ石に（国図・箒庵・

茶器)、白キ石嶺に有——白キ景嶺に在(国学・国図・箒庵)、是ヲ残雪ト云也——是を残雪と云(国学)——右名付(箒庵)、但此石見不申候——但し此石拜見不申候(東芸・茶器・土屋家)——此石拜見不申候(国学)——但し此石拜見いたさず候(国図)——但拜見不申(箒庵)、旧説也——旧説有(箒庵・茶器)——国学・国図・箒庵にナシ

一 末之松山 宗悦

右ノ石も大かた似たる様子也 上下一寸八分 横五寸三ト 前後二二寸九分斗力 是モ高キ山下キ山有 黒キ石白キ石上ニマシタリ

本哥

未の松山波こさし と仕と云心歟

右両石なりハ不定 鉢ニ立ル時備後砂ト云テ米程成白キ砂ニテ上手程石ノなりをちかへて立ル 但当代ハ如何 此石拙子拜見候

宗悦——宗悦二有(国学・国図・箒庵・茶器・土屋家)、右ノ石も——此石も(国学・国図・箒庵)、上下一寸八分——上下式寸八分(国学)、横五寸三ト——横五寸三分(国学・国図・東芸・箒庵・土屋家)——横へ五寸五分(茶器)、前後二二寸九分斗力——前後二二寸九分歟(国学)——前後二二寸九分斗力(東芸・土屋家)——前後二二寸九分(国図)——前後へ二二寸九分計力(茶器)、是モ高キ山下キ山有——是も高き所低き所有(国学・国図・箒庵)、黒キ石白キ石上ニマシタリ——黒石白石上ニまされり(国学)——黒キ石と白キ石とにまじりたり(国図)——黒キ石白キ石上ニ交りたり(東芸)——黒き白き上ニましりたり(箒庵)——黒キ石上ニマシリタリ(土屋家)——黒キ石ニ白キ石上ニマシリタリ(茶器)、と仕と云心歟——とハという心歟(東芸・茶器・土屋家、尚国学・国図・箒庵に「本歌……云心歟」ナシ)、右両石なりハ不定——右両石也(国学)——右両石也ナリハ不定(土屋家)、備後砂ト云テ——備後砂と

云(国学)——備後砂(国図・箒庵)、米程成白キ砂ニテ——米程成力砂ニ而(国学、尚国図・箒庵にナシ)、上手程石ノなりをちかへて立ル——まぐ事也(国学)——上手程石のなりを違て立ル也(東芸)、此石拙子拝見候——此石拙者八拜見不申候(国学)——此石拙者拝見いたさず(国図)——此石拝見申候(箒庵)——此石拙子拝見申候(東芸)

一 七ツ臺 此臺黒キ幅輪 ちうちやく朱ニテ 関白様

梅鉢有 内朱ニテ 秀長

一 千文字有 此内梅鉢 前田

一 千文字無も式つ有 宗及

以上五ツ 一ツ惣見院殿之時火二入 壱ツハ松永時失申候 代二千貫二成 昔シ美濃国うるきままと云所に寺物二七つなから有 能阿弥見出御物と成

一 七ツ臺……宗及——七ツ臺 関白様ニ二ツ有 此臺ハ黒キ臺也 ちくちやう朱ニ而 梅などの紋有 委長公ニ有 前田殿ニ有 宗及ニ有(国学)——七ツ臺 関白様ニ式ツ有 此臺黒キ臺也 ふくりん ちうじやく 朱にて梅ばちの紋あり 同朱にて一文字あり 此内梅ばち一文字なきも有 委長公ニ有 前田殿ニ有 宗きうに有(国図)——七ツ臺 関白様にあり 此臺黒キ臺也 ふくりんちうちやく 朱にて梅ばちの紋有 同朱ニ而一文字あり 此内梅鉢一文字なきもあり 秀長公に一 前田殿一 宗きう(箒庵)——七臺 此臺黒キ臺也。幅輪チウチヤク朱ニテ梅ノ鉢アリ。同朱ニテ一文字アリ。此内梅鉢一文字ナキモニツアリ。関白様ニ二有。秀長公大納言殿有。前田殿ニ有。宗及ニ有。(茶器)、以上五ツ 一ツ惣見院殿之時火二入——信長公の時火二入失候(国学)——以上五ツ 一ツハ信長公之御時火二入失申候(国図・箒庵)——以上五ツ 壱ツハ惣見院殿御時火二入(東芸)——以上五ツ 壱ツハ惣見院殿時

二火入失候（土屋家・茶器）、壺ツハ松永時失申候——一ツ松永時失候（国学・箒庵・茶器）——壺ツハ松永時失候（土屋家）、代二千貫二成——一ツ代二千貫宛也（国学・土屋家）——代式千貫ツツ也（国図・箒庵・茶器）、寺物二七つなから有——寺の代物にて七ツなから有（国学）——寺に七ツなから有（国図）、能阿弥見出御物と成——能阿弥見出し東山殿御物と成候（国学・国図・箒庵）——能阿弥見出御物ニナル（土屋家・茶器）、尚国学には次の一節アリ、「一説二数之臺ハ洛湯建仁寺禅居 として清拙の寺ニあり 三失七 黒漆ニ塗 黄覆輪トル 内ニ朱にて梅鉢の紋を画 旧説ニ濃州宇留間寺ニアリとハ非也」

一 尼崎臺 上十百貫二宛ツ

一 尼崎臺 下十代五十貫宛

上十百……五十貫宛——上ヲ百貫宛下ヲ五十貫ツ、（国学・国図）——上百貫宛 其の内むかて印有 下五十貫宛 梅鉢印（箒庵）

右此臺も黒臺也 朱にて臺之内ニ むかて印有 当世大名道具也 侘数寄二ハ如何

朱にて臺之内ニむかて印有——臺の内朱にてむかての印あり（国学）——右此臺天王寺屋宗 渡 七ツ臺を本にて

むかて十 梅鉢十三 来朝尼崎へ着岸依名と記（箒庵）、当世大名道具也——当世八大名道具也（国学）、侘

数寄二ハ如何——侘数寄ハイか、（国図）

一 紅龍臺 堆朱 此外けいししょうの臺 かいの臺色々有 是も貴人御為ニ可燃歟 此類天下数多シ 数寄方ニ如何

けいししょうの臺——けいしやう臺（国図）——珪璋の臺（箒庵）——ケイシヤクノ臺（茶器）、かいの臺——山の臺（国

図）、是も貴人御為ニ可燃歟——是も貴人の御為ニハ可燃歟（国学）——是も貴人の御方には然るへき力（国図）、此

類天下数多シ——比臺天下ニ数多し（国学）、数寄方ニ如何——数寄方にハイか、（国学・国図・土屋家・茶器）——

数寄方二ハ無用（東芸）——数寄方ハいかゝ（箒庵）

一 常黒臺 是ハ平成もの間 貴人凡人ニモ可燃歟

常黒臺——常ノ黒臺（国学・箒庵、尚箒庵は、この項を紅龍臺の項に組み入れている）、是ハ平成もの間——是ハ平成もの間（東芸）、貴人凡人ニモ可燃歟——貴人凡人も可燃也（国学・箒庵）——貴人凡人誰ニモ可燃歟（土屋家・茶器）

一 天目之事 紹鷗所持 一ツ白 天目一ツ

天下三ツ内ニツ関白様ニ有 引拙の天目堺油屋ニ有 何れも灰かつき 此外灰かつき方々ニ有 上中下有 奥ニ其数を不知 此内三ツ昔より数寄ノ臺ニ居りたる天目名物也

紹鷗所持——紹鷗の所持（国図）——紹鷗所持ノ一ツ（茶器）、天下三ツ——天下に三ツ（箒庵・国図・茶器）、引拙の天目堺油屋ニ有——因雪所持天目ハ堺油屋ニあり（国学）——いんせつ所持の天目堺油屋にあり（国図）——引拙所持天目堺油屋にあり（箒庵）、何れも灰かつき——何も灰かつき也（国学・国図・箒庵）、此外灰かつき方々ニ有——此外灰かつき方々（国学・箒庵）——此外灰カツキ方々有（土屋家）、上中下有——上中下（土屋家・茶器）、奥ニ其数を不知——其数をしらす（国学）——奥ニハ其数を不知（東芸）——委ハ其数ヲ不知（土屋家）——委其数ヲ不知（茶器）——箒庵にナシ、此内三ツ——此内三ツハ（国学・国図・箒庵・土屋家）——此内ニ三ツハ（茶器）、昔より数寄ノ臺ニ居りたる天目名物也——昔より数え臺に居る天目名物也（国学）——昔より数の臺にすはりたる天目名物なり（国図・東芸・箒庵・土屋家・茶器）

一 黄天目 是ハ灰かつきニ劣り候 たゞ天目は八世上ニ多キ物也 此三色ハ天目ト云也 口傳ニ申傳者也 天目ハ菓やはらかに 形ハつほふかき力能候

灰かつきニ劣リ候——灰かつきにハおとり候（国学）——灰かつきニ紛候（東芸）、たゞ天目は八世上ニ多キ物也——  
 たゞ天日也是八世上に多キ物也（東芸）——多々天日はも世上に多きもの也（箒庵）、口傳ニ申傳者也——口傳に申傳  
 候也（国学）——口傳に申傳也（国図・箒庵）——口傳ニ申渡者也（東芸・土屋家・茶器）、天目ハ薬やはらかに——  
 天目は和らかな薬（国学）——形ハつほふかき力能候——なりハふかき力能候（東芸）

一 けんさん 此内影星 油滴 烏蓋 別蓋 たいひ蓋 此六ツケンサンノ内也 代かるき物也 口傳ニ申渡候

此天目悉拙子拝見申候

ケンサンノ内也——ケンサン之物也（東芸）、口傳ニ申渡候——国学・国図・箒庵にナシ、此天目悉拙子拝見申候  
 ——国学・国図・箒庵にナシ

### 茶碗之事

一 松本茶碗 惣見院殿御代火ニ入申候

代五千貫 様子五ツ キソウタルせいしの茶碗ニ上ニふきすみ有 口五寸貳分 高サ壹寸八分 いとそこ一寸七分  
 善茶碗とハ此事也

惣見院殿御代火ニ入申候——信長公御代火ニ入失申候（国学・国図・箒庵）——惣見院殿御代火ニ入失申候（東芸）

——惣見院殿御代火ニ入失申候（土屋家・茶器）、代五千貫——代五貫（東芸）、様子五ツ——様子ハ五ツ（国学・  
 東芸）、キソウタルせいしの茶碗ニ——きざしたる青磁の茶盃（国学）——きさうたる青磁の茶わん（国図・東芸・  
 箒）、上ニふきすみ有——上ニフキ黒有（茶器）、いとそこ一寸七分——糸底七分（国学・国図・箒庵）

一 引拙茶碗 惣見院殿御代火ニ入失申候

代三千貫 茶碗様子少宛違候得共善茶碗ト同事也

引拙茶碗——因雪茶碗 青慈（国学）、惣見院殿御代火二入失申候——信長公御代二火入失申候（国学・国図）——信長公御代火二入失候（箒庵）、茶碗様子——茶碗の様子（国学・国図・東芸・茶器）——様子（箒庵）、違候得共——替り候へとも（国図・箒庵・茶器）、同事也——同（国学・国図・箒庵・茶器）——同事（東芸・土屋家）

一 安井茶碗 関白様豊後太守へ遣 代三千貫

様子少つゝ違 ニツノ茶碗二同シ

天下二三ツノ茶碗トハ此事也

関白様豊後太守へ遣——関白様より豊後太守へ被遣候（国学・国図）、関白様より豊後太守へ被遣（箒庵・東芸、尚東芸は、所持者と本文とを混同）——関白様より豊後太守江被遣之（土屋家）、様子少つゝ違——茶碗様子少つゝ違て（国学・国図）、天下二三ツノ茶碗トハ此事也——天下二三ツ（国図、前文に混入）——天下に三ツの茶碗也（箒庵）

一 珠光茶碗 惣見院殿御代火二入

唐茶碗也 ひしを色 へらめ七ツ在 宗易千貫二三好実休へ参候 此類蔭摩屋宗忻ヨリ九州へ参候 此外未有貳ツ

惣見院御代火二入——信長公御代火入失申候（国学・国図・箒庵）——惣見院殿御代火二入失申候（東芸・土屋家・茶器）、へらめ七ツ在——へら目廿七有（国学・国図・箒庵・東芸・土屋家・茶器）、宗易千貫二三好実休へ参候——宗易千貫と三好実休へ参候（国学）——従宗易千貫二三好実休へ参候（土屋家）、此類蔭摩屋宗忻ヨリ九州へ参候——国図にナシ、

一 コン子ン殿茶碗 清磁ノ物也 当世八如何 堺満田方ニ有

青磁ノ物也——茶碗青慈也（国学・箒庵）、堺満田方ニ有——堺ミつ田方に有（国学）——堺の満田の方にあり（箒庵）

『山上宗二記』の諸写本の比較研究（四）



一 善好茶碗 昔紹鷗 道陳所持 数寄道具ニよし 堺宗及

数寄道具ニよし——数寄道具のよし (国学・国図・箒庵・土屋家・茶器)——スキ道具也 (東芸)、堺宗及——堺宗及に有 (国学・東芸・土屋家・茶器)——宗きうにあり (箒庵・国図)

一 井戸茶碗 此一種山上宗ニ見出し名物成 高麗茶碗也 関白様

名物成——名物に成る (国学)——候名物になり候 (国図)——名物にある (箒庵)——名物ニ成候 (東芸・茶器)——名物工成 (土屋家)、関白様——関白様ニ有 (国学・国図・土屋家・茶器)

惣別茶碗之事 高麗茶碗ハ捨りたる也 当世ハ高麗茶碗 今焼茶碗 瀬戸茶碗以下迄也 比さへ能候ハ数寄道具ニ候

拙子悉拜見申候

茶碗之事 高麗茶碗ハ捨りたる也 当世ハ高麗——国図にナシ、以下迄也——以下まで (東芸)——以下迄ニ也 (土

屋家)、比さへ能候ハ——形比さへ能候得者 (国学・東芸・土屋家)、数寄道具ニ候、数寄道具ニ候 (箒庵)、拙子悉拜見申候——拙子拜見申候 (土屋家)

一 茶抄 朱徳象牙 昔紹鷗所持 茄子ノ茶抄也 朱徳 関白様

茄子ノ茶抄也——茄子茶入の茶抄也 (国学)——茶抄 茄子の也 (箒庵)、関白様——関白様ニ有 (国学・国図・箒庵・土屋家、茶器にナシ)、尚国学には「関白様ニ有」の後に「国 之象牙」とある。

一 茶抄 ニツ目結 象牙 惣見院殿御代火ニ入ニツ目結——珠徳作ニツ目結 (国学)——しゅとくニツめゆい (国図・箒庵・東芸・茶器)、惣見院殿御代火ニ入——信長公御代火入失申候 (国学・国図・箒庵)——惣見院殿御代火ニ入

失申候 (茶器)——惣見院殿御代火入申候 (土屋家)

此外朱徳ノ茶抄可有数 次ハ子フチモ茶抄けつり也 右両作当世ハ捨り候歟 如何 此比ハ慶首座ため能候

此外朱徳ノ茶抄可有数——此外珠徳之茶抄数有へき力不聞申候(国学)——此外朱徳の茶抄数有へき力(国図・箒庵)、次ハ子フチモ茶抄けつり也——者子淵も茶抄削申候(国学)、慶首座ため能候——慶首座折ため能候(国学・国図・箒庵)——茶器にナシ

一 竹茶抄 朱徳作 アサチ 代千貫 右同所

右同所——信長公御代火入失申候(国学・国図・箒庵)——惣見院殿御代二火入申候(土屋家)——総見院殿御代二火入失申候(茶器)

一 魚夫規 此硯於唐米元章所持 硯之裏ニ寶晋齋ト云字ホリ付テ有 宗瓦所持

此硯於唐米元章所持——此硯唐ニ而米元章所持(国学)——此硯宋ノ米元章所持(国図)——此硯唐米元章所持(箒庵)

——此硯於唐ヘイケイセウ所持(土屋家・茶器)、宗瓦所持——宗庵所持(国学)——宗凡所持(茶器)

一 宗達之臺子之内四ツクミ

一 平釜 珠光たき桶 今宗及二有 惣見院殿時代火二入

珠光之合子 柑子口柄抄指 惣見院殿時代火二入

平釜——平釜代千貫(国学)、今宗及二有——今井宗休二有(国学・国図・箒庵)、惣見院殿時代火二入——信長公御

代火入失申候(国学・国図・箒庵)——惣見院殿御代火二入(東芸)——惣見院殿御代二入失申候(土屋家)、——惣

見院殿御代二火二入失申候(茶器)、珠光之合子——珠光の合子 宗及二有(国家)——珠光の合子 宗休にあり(国

図・箒庵)、柄抄指——柄抄立(国学・国図・箒庵)、惣見院殿時代火二入——信長公御代火入失申候(国学・箒庵)

——信長公御時火に入失申候(国図)——惣見院殿御代火二入(東芸)——惣見院殿御代二火入失申候(土屋家・茶器)

## 引拙之棚之

宗易 荒木所持 今 関白様二在

姥口ノ平釜 ふとんの釜 今 宗及二在

二ツ内也 銅ノえん桶

くるみ口の柄抄さし

合子水こほし

## 右二嚴之外八如何

引拙之棚之 ……右二嚴之外八如何——因雪棚之内 四莊共二関白様二有 四共二名物也 一姥口平釜 関白様二有 宗易与荒木所持 此時五百貫二渡ス 一銅エン桶の水指 南蛮物 一ふとん釜 今井宗及二有 一銅のえん桶 前のエン桶の事歟 一くるみ口柄抄立 唐物也 紋五通りさす 一合子水翻 南蛮物 右二飾りの外いかん（国学）——いんせつの棚の内 一姥口の平釜 宗易 荒木所持 今関白様二有 一ふとん釜 今宗及にあり 一銅のえん釜 一くるみ口の柄抄さし 一合子のこほし 右二かさりの外はいかん（国図）——引出棚之内 うハ口の平釜 宗易 荒木所持 今関白様二有 ふとん釜 宗及にあり 銅のえん桶 くるみの柄抄さし 合子水こほし 右二莊りの外はいかん（箒庵）——引拙棚之内 姥口釜 宗易 荒木所持也 今関白様二有 ふとんの釜 今宗及二有二ツ内也 銅えん桶 くるみ口の柄抄さし 合子水こほし 右二嚴之外八如何（東芸）——引拙之棚之内 ウハクチノ平釜関白様二有。フトンノ釜。今宗及二有。宗易荒木所持。今二ツノ内也。銅ノエン桶。クルミクチノ柄抄サシ。合子水コボシ。右嚴之外八如何。（茶器）

一 火筋之事 但高麗筋 昔紹鷗所持 從宗及代五百貫二平野二行 未彼所二有

從宗及代五百貫二平野二行——堺宗久代五百貫平野へ行（国学）——從宗久代五百貫二平野へ行（東芸・土屋家・茶器）

一 さから高麗筋 紹鷗鉄のはし兩種 惣見院殿御代火二入

紹鷗鉄のはし兩種——紹鷗くる金火箸兩種（国学・国図・箒庵）、惣見院殿御代火二入——惣見院殿時代火二入（東芸）——惣見院殿御代二火入失申事（土屋家）——惣見院殿御代火二入失申候（茶器）

一 四方盆之事 昔はねた ぬり名人也 中比八法界門上手ナリ 紹鷗茄子ヲ初テ法界門也 上八三十貫 中八廿貫 下八拾貫

昔はねた——昔ハはねき（国学）——昔ははねた（国図）——昔ハはねた（箒庵）、法界門——法界門（国学）、紹鷗茄子ヲ初テ法界門也——紹鷗茄子の盆初而法界門（国学）——紹鷗茄子の盆を初而法界門（国図）、上八三十貫——塗上八廿貫（国学）

一 内赤之盆 是ハ唐物也 外二花を五色ホル 梅 合なし 菊 牡丹 芍薬 此分ナル也 堆朱ノ朱漆ニテ圓川東房ト云書付有 作張成 代百貫 十枚有 又少し小形成力十枚有 是ハ悪シ 代目利次第

合なし——口なし（国学・国図・箒庵・東芸・土屋家・茶器）、此分ナル也——此分彫也（国学・国図・土屋家・茶器）——此分をはるなり（東芸）、堆朱ノ朱漆ニテ圓川東房ト云書付有——堆朱の手 裏黒し 朱漆ニテエンヒン東房ト云書付有（国学・国図・箒庵、尚国図は「アンセン」、箒庵は「エンセン」となっている）、堆朱の手 裏黒シ 朱ニテ圓川東房ト云書付有（東芸・土屋家）——ツイシユノ手。裏黒。朱ウルシニテエンセン東方ト云書付アリ。（茶器）、代百貫——千百貫（国図）、又少し小形成力十枚有——又少々小形共二十枚有（国学）、是ハ悪シ 代目利次第

——あしき八代目利次第也(国学)——悪シ代目利次第(国図)——悪代目利次第(箒庵)——是ハ悪敷代目利(東芸)

### 侘花入

一 手燈籠 唐かこ也 昔紹鷗所持 堺なや 宗薫

唐かこ也——唐物箒(国学)、堺なや 宗薫——堺奈良屋宗薫にあり(国学)——堺宗薫にあり(国図)——堺なや宗薫に有(箒庵、尚箒庵には、この後「侘花入なり」とある。

一 紹鷗 備前筒 城之助御代失申候

備前物竹子 宗易堀出 石橋良叱二有

紹鷗 備前筒——紹鷗の備前筒(国学・国図・箒庵)、城之助御代失申候——城介殿代二火入失申候(国学)——城介殿代に失申候(国図・箒庵)——城之助御代火二入失申候(東芸)、石橋良叱二有——白石橋良叱二有(国学)

一 袋棚ト云物有 引拙 紹鷗是を専二度々蔵ル 口傳直二申渡候

口傳直二申渡候——口傳二申渡候(国学)——国図・箒庵にナシ、尚国学は、「口傳二申渡候」に続いて、次のように記す。「但袋棚は侘数寄ハ無用也 名物数多く所持之人ハ床に掛物前に花敷 大壺力置て袋棚の内に小壺を内赤の盆に載せて三ツの天目の内数の臺に居へ 二ツ飾る上ニ堆朱の印箒 下の のフスマ障子の内ニ赤カ子のタライの水指也 柄抄 蓋置 金の水コボシ 茶筌入茶碗也」

### 名物之釜ノ数

一 平雲 松永代二失申候

宗達平釜 藤波平釜ニツ 信長公御代ニ失 但此平釜八当世八有テモ不用

平雲——蛛耳（国学）、御代ニ失——御代火ニ入失申候（国学）——御代に失申候（国図）——御代ニ失也（箒庵・茶器）——御代ニ失候（土屋家）、此平釜——此三ツの釜（国学・国図・箒庵・東芸・土屋家・茶器）

一 紹鷗小霰釜 水貳升入 天下一也 関白様 此釜信長公ヨリ宗二拝領仕 関白様へ進上

紹鷗小霰釜——紹鷗小霰の釜（箒庵・茶器）、水貳升入——水二升の上入申候（国学）——水二枡上入（箒庵）——水

二升入上（東芸・土屋家・茶器）、天下一也——国図・箒庵にナシ、関白様——関白様ニ有（国学・国図・箒庵・茶器）——関白様在（土屋家）、宗二拝領仕——宗二拝領（国学・国図・東芸）——宗二拝見（箒庵）、関白様へ進上——

関白様へ上ル（国学・国図）——関白様に上（箒庵）

一 乙コセノ釜 水四升八合入 関白様

乙コセノ釜——乙御前釜（国学・箒庵）——乙ゴセノ釜（東芸）、水四升八合入——水四升八合入カ（茶器）、関白様

——関白様ニ有（国学・国図・箒庵・土屋家・茶器）

一 せめ初ノ釜 水五升三合入 右同所

せめ初ノ釜——せめ初釜（東芸）——せメ細ノ釜（土屋家）、右同所——同所（国学）——関白様に有（国図・箒庵・

土屋家・茶器）

一 不うろく釜 三升入 関白様

関白様——同所（国学）——右同所（東芸）——関白様に有（国図・箒庵・土屋家・茶器）

一 引拙之祖母口平釜 右同所

引拙之祖母口平釜——引拙姥口平釜（国学）——引拙ウハクチ平釜（茶器）——いんせつ姥口之釜（国図）、右同所

『山上宗二記』の諸写本の比較研究（四）

明治大学教養論集 通卷二八七号(一九九六・三)

——同所(国学)——関白様に有(国図・箒庵・茶器)——関白様在(土屋家)  
右五ツ古今之名物也

一 珠光ノ鍋釜 千貫 但當世如何宗易云 今井宗薫二有

但當世如何宗易云——但當世如何と宗易云(国学・国図・箒庵)——但當世ハ如何ト宗易云(東芸)——當世ハ宗易如何ト云(茶器)

紹鷗のしやうはりの釜

紹鷗のしやうはりの釜——紹鷗常張釜(国学)——紹鷗浄張の釜(箒庵)

一 宗易しやうはりの釜 此外のしやうはりの釜 又宗久林徹釜 宗甫 善好釣物 もすや宗安 宗易釣物 何レ昔より申傳ル釜ハ當世ハ如何 口傳

宗易しやうはりの釜——宗易常張釜(国学)——宗易常張の力ま(箒庵)、此外のしやうはりの釜——此外常張釜も又有(国学)——此外しやうはり釜とも(国図・箒庵・土屋家・茶器)、又宗久林徹釜——宗久林徹の釜(国学・国図・箒庵・茶器)、何レ昔より申傳ル釜ハ當世ハ如何——何れもむかしより申傳る釜當世いか、(国学・国図・箒庵)——何二昔ヨリ申傳ル釜ハ當世如何(東芸・土屋家・茶器)、口傳——口傳二申渡候(東芸・土屋家)——口傳申渡候(茶器)

一 引拙之大霰之猿釜 大納言秀長殿二有 右御釜ハ古今之名物なり 此外紹鷗筋釜并笠釜 是ハ数寄道具たるへし  
三ツ共二大釜也 水五升斗入 惣別當世の釜大かたに上へ長ク 口セまき釜はやり候 第一はたへ能 但小釜も なり  
口 はたへさへ能候得ハ数寄に入なり 悉拙子拜見申候 口傳二申傳候

引拙之大霰之猿釜——因雪大霰猿の釜(国学)——いんせつの大霰たひ釜(国図・箒庵・茶器)、大納言秀長殿二有

——秀長公二有（国学・国図・箒庵・茶器）——大納言殿秀長公二有（土屋家）、右御釜ハ古今之名物なり——右之釜古今の名物なり（国学・国図・箒庵）、此外紹鷗筋釜并笠釜——此外紹鷗筋并笠釜（土屋家）、是ハ数寄道具たるへし——是ハ数寄道具と云（国学）——是ハ数寄と云（国図・箒庵）——是ハ数寄ニ二タルヘシ（土屋家）——是ハ数寄くタルベシ（茶器）、三ツ共ニ大釜也——三ツの釜共に大釜也（国学）、惣別當世の釜かたに上へ長ク——惣別當世の釜大形に上へ高く（国学）——惣別當世のかま大かたに上ハ長く（箒庵）、但小釜も なり 口 はたへさへ能候得ハ——但小釜も形 比 口 ハタエ能候得者（国学）——但し小釜も形 口 はたへさへ能候へハ（箒庵）——国図にナシ、数寄に入なり——数寄ニ入（土屋家）——数寄ニ入候也（茶器）、悉拙子拝見申候——悉拙者見申候（国学）——悉く拙子見申候（箒庵）——悉拙子拝見申（東芸・土屋家・茶器）——国図にナシ、口傳ニ中傳候——口傳ニ中渡候（東芸・茶器・土屋家）——国学・国図・箒庵にナシ

名物之水指

一 紹鷗芋頭 天下一也 土ノ物 関白様

紹鷗芋頭——紹鷗の芋頭（国学・国図・箒庵）、天下一也 土ノ物——天下一（国学）——天下一之土の物（国図・箒庵）——天下一 土物（東芸）——天下一也。大物（茶器）、関白様——関白ニ有（国学・国図・箒庵・土屋家・茶器）

一 右此外いもかしら方々ニ数有 夫ハ如何 但数寄也

右此外いもかしら方々ニ数有——右之物此外ニ芋頭方々数有（国学）——右の外芋頭方々に数あり（箒庵）——此外いもかしら方々にあり（東芸）——右イモガシラ有方々数（茶器）、但数寄也——但しすきく（国図・箒庵・東芸・土屋家・茶器）



一 紹鷗志から記 宗易志からき 何も能水指也

紹鷗志から記——紹鷗の信楽 (国学・国図・箒庵)

一 玄哉志から記おに桶 城之助殿ニテ失申候 未ニ出候はん力

玄哉志から記おに桶——玄哉志力らき桶 (国図)、城之助殿ニテ失申候——城介殿代失申候 (国学)——城介殿にて失申候 (国図・箒庵)、未ニ出候はん力——未出候ハぬ力 (東芸)

一 宗及いもかしら 主ニ依て可数寄力 土物也 天下ニ一ノ物

土物也——土桶ナリ (土屋家)——国学・国図・箒庵・東芸・茶器にナシ、天下ニ一ノ物——天下ニ一ツのもの (土屋家)——国学・国図・箒庵・東芸・茶器にナシ

一 <sup>山田吉田</sup>かめの蓋 なんはん物 関白様

山田吉田——山口吉田 (国学・国図・箒庵・東芸)——茶器にナシ、かめの蓋——瓶の蓋 (国学・国図・箒庵)、なんはん物——南蛮物 (国学・国図・箒庵・東芸・茶器)、関白様——関白様ニ有 (国学・国図・箒庵・茶器・土屋家)

一 志ゆかんかめの蓋之儀 紹鷗など一段ほうひ二候 紫野 春屋和尚

志ゆかんかめの蓋之儀——シユンカンカメノ蓋ノキ (土屋家)、紹鷗など一段ほうひ二候——紹鷗杯一段ほうひ (国学)——紹鷗など一段褒美候 (国図・箒庵・東芸・土屋家・茶器)、紫野 春屋和尚——紫野春屋和尚ニ有 (国学・箒庵・茶器・土屋家)——紫野春庵和尚ニ有 (国図)

此外かめのふた方々ニ数多 当世如何

当世如何——当世ハいか、(国学・箒庵・東芸・茶器)

一 紹鷗スイロノ棒ノサキ 宗久ニ有 力子ノ物 色少薄墨ニくろし

宗久二有——宗休二有（国学、尚国学は、この項の始めに「名物之水翻」と記している）——宗二に有（国図）——宗及二有（東芸）、色少薄墨ニくろし——色サウスミニクロシ（国学）——薄墨ニクロシ（土屋家）——色薄墨ニ少くろし（東芸）

一 紹鷗石菖鉢 清紫の物 花入ニモ成 宗及

紹鷗石菖鉢——紹鷗の石菖鉢（国学・国図・箒）、宗及——宗久二有（国学・国図・箒庵・茶器）——宗久（東芸）——宗久在（土屋家）

一 宗斬石菖鉢 右二同 春屋和尚<sup>紫野</sup>

宗斬石菖鉢——宗帆（国学）——宗竹石菖鉢（国図）——宗 石菖鉢（箒庵）——宗折石菖鉢（東芸）、右二同——同所（国学）——右同（東芸・茶器・土屋家）、春屋和尚——春屋和尚に有（国学・国図・箒庵・土屋家・茶器）

一 紹鷗備前物也面桶 もすや備前物ノかめの蓋 宗易ノたこつほ 宗久備前合子 ミきた屋棒の先 右五ツ何れも数寄道具也

紹鷗備前物也面桶——紹鷗備前物の面桶（国学・国図・箒庵）——紹鷗備前物の之面桶（東芸）——紹鷗備前物之由面桶（茶器）、もすや備前物ノかめの蓋——鴨屋備前瓶の蓋（国学）——もすや備前のかめの蓋（国図）——もすや備前の瓶のふた（箒庵）、宗易ノたこつほ——国図にナシ、宗久備前合子——宗及備前合子（国学・土屋家・茶器）——宗及備前の合子（東芸）——国図にナシ、ミきた屋棒の先——棒のさき（国図）、右五ツ何れも数寄道具也——右五ツ者いづれも数寄道具也（国図）——右五ツ也 何茂数寄道具也（箒庵）

一 紹鷗之細鎌在 右鉄

右鉄——在鐵（国学・国図・箒庵）——鉄（土屋家）

『山上宗二記』の諸写本の比較研究（四）

一 宗易あつき鏤 唐かね也 荒木城ニテ 伊丹ニテ失候 惣別くさりハかきもとをし力専也 右宗易鏤ニハかきもとをし力天下一也

宗易あつき鏤——宗易の小豆鏤(国学)、唐かね——但からかね也(国学・国図・箒庵・東芸・土屋家・茶器)、荒木城

ニテ 伊丹ニテ失候——荒木城伊丹にて失申候(国学)——荒木城にて失申候(国図)——荒木城に而うせ申(箒庵)

——荒木城伊丹ニテ失候(茶器)、惣別くさりハかきもとをし力専也——惣別鏤ハ鏡元折リイ専也(国学)——惣別く

さり者うきもとおりカせん也(国図)——惣別鏤ハカキモトヲシガ専也(茶器)、右宗易鏤ニハかきもとをし力天下一

也——宗易鏤元折力天下一也(国学)——右之宗易鏤ニハカキモトヲシカ天下一也(土屋家・東芸)——右之宗易鏤ニ

ハカキモトヲシガ天下一也(茶器)——国図・箒庵にナシ

一 紹鷗色紙 宗久在 月下繪ニ在 安部ノ仲丸力天ノ原ノ歌也

宗久在——宗久ニ有(国学・国図・箒庵・東芸)——今井宗久ニ有(茶器)、月下繪ニ在——月下画ニ有(国学)——

月志た繪に有(国図)、安部ノ仲丸力天ノ原ノ歌也——阿部仲丸力天原の歌也(国学)——安部ノ仲丸力天原ノ歌也(茶

器)

宗及色紙 葎下繪ニ有 惠慶法師力八重葎ノ歌也

宗及色紙——宗久色紙ハ(国学・箒庵)、惠慶法師力八重葎ノ歌也——惠慶力八重むくらの歌也(国学)——惠慶八重

葎の歌也(同図)——惠慶ハ八重葎のうた(箒庵)——惠慶法師が八重葎ノ歌也

一 右定家の色紙之事 下繪有力吉 下繪のな記ハわろし

右定家の色紙之事——右者定家色紙の事也(国学)——右定家色紙の事(国図・箒庵)、下繪有力吉——下画の有かよ

し(国学・国図・箒庵・茶器)、下繪のな記ハわろし——無きわろし(国学)——無キハわろし(国図・箒庵)

一 炭斗 紹鷗かこ宗久二有 昔八かこの手 又ハ食籠炭斗はやる 当世ハ瓢箪まで二候  
炭斗——炭取（東芸・土屋家・茶器）、

一 つるへ 面桶 竹の蓋置この三色紹鷗好 被出候

紹鷗好 被出候——紹鷗好にて候（国学）——紹鷗好ミ被出候（土屋家・東芸・茶器）

一 自在ハ昔ヨリ有 紹鷗 宗易好ミ被出候 猶以 當世教寄道具二而候

右條々 以上悉口傳二申渡候

紹鷗——但紹鷗（国学・国図・箒庵・東芸・土屋家・茶器）、右條々 以上悉口傳二申渡候——国図・箒庵にナシ

一 花之事 十月二御茶の口切ル

白梅 め柳 薄色椿 白玉 水仙之事 金盞銀臺 右何も専二用 寒菊も冬生る也 并右ノ花春ハ勿論也

十月二御茶の口切ル——十月御茶之口切二候（国学）——十月に御茶の口切候て（国図）——十月に御茶の口切候（箒

庵・茶器）——十月二御茶口切二候（東芸）——十月二御茶ノ口切（土屋家）、白玉——白椿（国学）——白玉椿（国図

・茶器・土屋家）、水仙之事——水仙（国学・箒庵）——水仙花（国図）——水仙花事也（茶器）、金盞銀臺——国学・

国図・箒庵にナシ、右何も専二用——此花何れも冬専二用ル（国学・箒庵・茶器）——此花いつれも冬に用（国図）

——右何茂冬専二用（東芸）——此何も冬専二用（土屋家）、寒菊も冬生る也——寒菊冬生ル也（国学）——寒菊も冬

入ル（箒庵）、并右ノ花春ハ勿論也——右之花春ハ勿論（国学）——右之花春ハ勿論なり（箒庵）

### 夏之花

一 芍薬 薄色ノせんよう 但赤芍薬ハ無用 うちの撫子 石竹 桔梗 夕顔 白芥子 朝顔 萩 眼は大方注す 何

も此外成共白キ花ハ入へし 赤キ無用歟

薄色ノせんよう——薄色も 但赤不用(国学)——薄色 但し赤は無用(国図)——うす色 但赤キハむよふ(箒庵)  
 ——薄色ノ千葉。但赤芍薬ハ無用也(茶器)、眼は——かんひ(国学・箒庵)——がんひ(国図)——眼皮(茶器)、大  
 方注す——大方印ス(国学)——右大かたしるす(国図・茶器)、何も此外成共白キ花ハ入へし——何も此外成とも白  
 キ花ハ入て吉(国学)、赤キ無用歟——赤は無用(国図)——赤キハ不用(箒庵)——赤ハ無用力(茶器)——国学にナ  
 シ

一 一八むくけ 是も白キハ入へし

春菊も入へし 又秋の菊ハ細口ニハ無用 真手桶 釣へ 花籠杯ハ可然

一八むくけ 是も白キハ入へし——いちはずむくけも白キハ吉(国学、尚国学・国図はこの項を前項に組み入れている)、又秋の菊ハ細口ニハ無用——秋菊細口にハ無用(国学)——又秋の菊ハ細口には無用也(国図・土屋家・東芸・茶器)——又秋の菊ハ細口にハ不用也(箒庵)、真手桶——真の手桶(国学・国図・箒庵)、釣へ——釣瓶ニハ(国学)、花籠杯ハ可然——花籠などに可然(箒庵)——花籠などにハ可然(東芸・茶器)——花カコトニハ可然(土屋家)

一 善花瓶ニハ万草悉可入 花の上手ハ何れの花手柄次第也 花に法度を云ハ初心の為也 口傳ニ申渡候

花の上手ハ何れの花手柄次第也——花の上手ハ何れの時も手柄次第也(国学・国図・箒庵)、初心の為也——上手にハ無 初心の事と心すへし(国学)——上手にはなき事也 初心のため也(国図・箒庵)——初心也(土屋家)、口傳ニ申渡候——国学・国図・箒庵にナシ——口傳ニ申渡(茶器)

一 會席之事 色々様々毎度替也 其内正風躰成ハ日々幾度も可然 其内珍敷てたて八十度ニ一度二度歟 名物持卅三  
 リ内ノ茶湯仕出衆五度迄も可赦 第一物を入れてそそう二見ゆる様ニする力専也 口傳ニ申渡 又大名を申入時歟 珍敷  
 作分可出歟

毎度替也——幾度も代ル也（国学）、其内正風躰成ハ日々幾度も可然——箒庵にナシ、其内珍敷てたて八十度二度二度敷——其内珍敷手立十度に一度カ二度カ（国学・箒庵）、名物持卅ヨリ内ノ茶湯仕出衆五度迄も可赦——名物を持三十ヨリ内の茶の湯仕出之衆ハ可赦（国学・国図・箒庵）——名物卅ヨリ内ノ茶湯仕出衆五度迄も可赦免（土屋家）、口傳二申渡——国学・国図・箒庵にナシ——口傳申渡者也（茶器・土屋家）、又大名を申入時敷——又大名を申入候時ハ（国学・国図・箒）——又大名ヲ申入時ハ（茶器）——又大名を申入候時カ（東芸）、珍敷作分可出敷——珍敷作分出すへし（国学・国図・箒庵）——珍作分可出候（土屋家）

### 茶湯者之覚悟之事

一 上をそさう二下ヲ律義ニ物のはつの違ぬようにすへし

茶湯者之覚悟之事——茶湯者の覚悟之事十体（国学）、物のはつの違ぬようにすへし——物をはちかはぬやうに仕へし（国学）

一 万事物のたしなみ并氣遣

一 きれひすき 心のうち猶以專也

心のうち猶以專也——心中猶以專也（土屋家）

一 朝おき夜はなし

朝おき夜はなし——国学は、この後に次の一句を続ける。「會の時ハ寅の上刻より茶湯仕掛ケ申候」

一 酒をひ力ゆる事 又姪乱もひ力ゆへし

酒をひ力ゆる事 又姪乱もひ力ゆへし——酒をひカへ 又姪乱もひカへへし（国学）——酒をひ力ゆる 又姪乱をひ

カゆへし（国・箒庵）——酒ヲヒカユル事。又姪乱モヒカへ候べし（茶器）

一 茶湯を冬と春ハ雪を心 晝夜すへし 夏秋ハ初夜過可然 但月の夜ハ独り成共可及夜更ニ

茶湯を冬と春ハ雪を心 晝夜すへし——茶湯冬春ハ雪を心に晝夜へし（国学）——茶湯は冬春ハ晝夜雪を心にすへし

（国・国）——茶湯を冬春ハ雪を心に晝夜すへし（箒庵）——茶湯を冬春ハ雪を心カけ夜すへし（東芸）——茶湯ヲ冬春ハ

雪ヲ心盡夜スヘシ（土屋家）、夏秋ハ初夜過可然——秋夏ハ初夜過迄ハ可然（国学）——夏秋ハ初夜過迄しかるへし（国

・国・箒庵・土屋家・東芸・茶器）、但月の夜ハ独り成共可及夜更ニ——但月の夜ハ独成とも深更ニ及へし（国学・国

・国・箒庵・東芸・土屋家・茶器）

一 人を見知寄合へき事專也 第一我ヨリ上ナル仁ト知音する事可然

人を見知寄合へき事專也——人を見知り寄合へきの（国学）——人を見しり寄合へき事也（国・国）——人ヲ見知可寄合

事專也（茶器）、第一我ヨリ上ナル仁ト知音する事可然——第一我ヨリ上なる仁と知音する事尤可然也（国学）——第

一我より上なる仁を知音にする事尤なり（国・国）——第一われより上成仁と知音する事尤也（箒庵）——第一我より上

なる仁と知音すること尤可然（東芸・土屋家）——第一我ヨリ上ナル仁ト知音スル事尤可然候（茶器）

一 茶湯にハ座敷 路地 境地勿論 竹 木 松在所 并たゝみ此分專也

松在所 并たゝみ此分專也——松の在所 并たゝみを直敷事此分也（国学）——松の在所 并たゝみ此分なり（国・国・

箒庵）——ノ在所 并たゝみ。此分專也（茶器）——松在所并たゝみ、此分專なり（土屋家）

一 善道具持事 但珠光并引拙 紹鷗 宗易此衆心ニ被懸茶湯道具專なり

但珠光并引拙 紹鷗 宗易此衆心ニ被懸茶湯道具專なり——珠光并因雪 紹鷗 宗易此衆心に掛らるゝ茶湯具專也（国

学）

一 茶湯は無能なるが一能也

茶湯は無能なるが一能也——茶湯ハ壺能成カ一ツの能也（国図）——茶湯は無能なるが一ツの能也（国図・箒庵）

注二曰ク 人間ハ六十雖<sub>キ</sub>定命<sub>ト</sub>其内ノ身の盛事ハ廿年也 茶湯にふ断身をそむるさへ上手ハなきに 彼是に心を懸ハ何れの藝も下手の名を取へし 右口傳ニ申渡 但物書文字をたしなむハ可赦と之紹鷗のしめしなり

人間ハ六十雖<sub>キ</sub>定命<sub>ト</sub>——人間にハ六十定命と云へり（国図）——人間ハ六十定命といへり（国図）——人間ハ六十定命と云り（箒庵）——人間六十雖定命（東芸）、其内ノ身の盛事ハ廿年也——其内身の盛成事廿年なり（国図・国図）

——其内身の盛成事ハ廿年なり（箒庵）、彼是に心懸ハ何れの藝も——彼是に心をかけ何の藝も（国図）——彼是に心を掛ば何の藝も（国図・茶器）、右口傳ニ申渡——右口傳ニ申渡候（東芸）——国図・国図・箒庵にナシ、但物書文字をたしなむハ可赦と——但物を書文字を嗜むハ可赦也（国図）——但物を書文字を嗜むハ赦へし（国図・箒庵）——但物ヲ書文字ヲタシナムハ可赦ト（土屋家）——茶器にナシ、之紹鷗のしめしなり——紹鷗ノシメシ也（土屋家）

### 又十躰之事

一 目利 注二曰 茶湯之道具之事不及申 目ニ而見る程之物悉善悪を見分ケ 人の誂程の物をしほらしく好事専也 口傳に申渡 目利に嫌ふ事 むまきものに似る物を目利嫌ふ也

不及申——不及申候（国図）、目ニ而見る程の物悉——目にて見る程の物（国図）——目にて見る程の物をば（国図・茶器）——見る程の物は（箒庵）——目にて見る程の物を（東芸・土屋家）、しほらしく好事専也——しほらしく好む事也（国図）、口傳に申渡——口傳申渡候（土屋家）——国図・国図・箒庵にナシ、目利に嫌ふ事——目利嫌ふ事（国図）——目聞ニテキラフ事（土屋家）、むまきものに似る物を——うまき物に似たる物を（国図・国図・箒庵）、目利嫌ふ也——すぐ目利を嫌ふ事（国図）——すぐ目利きらう也（国図・箒庵）



一 手前 薄茶力専也 是ハ真の茶ト云 世上に真の茶ト云ハ濃茶之事也 是を手前をも身をもくつしてこい茶をかたまらぬ様ニ いきのぬけぬ様ニ立る也 其外臺子ノ四ツくみ并小壺 肩つき其外此中ニ在

手前 薄茶力専也——手前ハ薄茶力専也 (国学)——薄茶力専也 (茶器)、是ハ真の茶ト云——是を真の茶と云 (国学)・国図・箒庵・茶器)、是を手前を——是ハ手前を (国学)——是をは (国図・箒庵)——是ヲバ (茶器)、此中ニ在——此内にあり (国学・国図・箒庵)

一 囲炉裏 風炉 炭 灰之事 注二曰 炭ノ手不知数 朝ハ炭ヲなかれて面白キ様ニ置也 惣別冬ハ曉寅ノ刻ヨリ茶ノ湯ヲ仕懸る也 然ハ日ノ差出シ炉中面白シ 茶前にわく様ニ無味炭ヲ置也 客人帰りサマニ手ヲ置ナリ 日暮から夜放シ夜の更るにしたかつて手を置へし 次ニ灰之事角ノ手きはを真ニ入てそ、うに見る様ニ灰ヲ入ル也 口傳ニ申渡候

注二曰——注曰ク (土屋家)——国学・国図・箒庵にナシ、炭ノ手不知数——炭の手数を知らず (国学・国図・箒庵)、朝ハ炭ヲなかれて面白キ様ニ置也——朝ハ流れの面白キ様に置也 (国学)——但ハながれの面白様に置也 (国図)——但朝ハ流れのおもしろきように置なり (箒庵)——但朝ハ炭をなかれて面白キ様に置也 (東芸・土屋家・茶器)、寅ノ刻——富ハノ刻 (土屋家)、仕懸る也——仕懸置也 (国学・国図・箒庵)、日ノ差出シ——日の出るに (国学)、茶前にわく様ニ無味炭ヲ置也——茶前に湯のわく様に無味に炭を置也 (国学)——茶前には湯のわく様ニ無味ニ炭をおく也 (国図・箒庵・東芸・土屋家・茶器)、一日の間ハ炭不取合流次第ニ置也 (東芸・箒庵)——一日間て炭取あわせ流れ次第に置也 (国学)——一日ノ間ハ炭不取合流次第ニ置也 (土屋家)——八重柏にナシ、日暮から夜放シ夜の更るにしたかつて手を置へし——日暮から夜咄ハ更るに従ひ手を置へし (国学)——日暮夜咄はふけるにしたかひ手を置へし (国図)——日暮から夜咄しに更るにしたかひ手を置へし (箒庵)——日暮カラ夜施シニ更ルニシタカツテ手ヲ置へ

シ（土屋家）、角ノ手きはを真ニ入てそゝうに見る様ニ灰ヲ入ル也——角々を手際に真入て鹿相に見ゆる様ニ入る也（国学・国図）——隅々を手きハをしんに入て鹿相にミゆるやうに入る也（箒庵）——角の手際を真に入て鹿相ニ見ゆる様に灰を入ル也（東芸・土屋家）——カへく手ギワヲ真ニ入テ。ソサウニ見ユル様ニ灰ヲ入也（茶器）、口傳申渡候——口傳申渡（東芸・土屋家・茶器）

一 所作 一花生様 一繪 墨蹟懸卷 一天目呑様 同数臺 万籠 道具上下 一コイ茶呑様 一床へ道具上下 一  
小壺 肩衝客ニ成見様 一風炉 小板 釜直ニスユル様 イロリノ内ニ釜釣様 其外手ニテ仕程之所作之事  
一花生様……仕程之所之事——花生様 繪 墨蹟 掛物 床へ道具上ケ下ケ 一臺天目 茶呑様 同数の臺 万臺  
一濃茶呑様 一小壺 肩衝 客ニ成て見様 一風炉 小板 釜居置様 炉の内に釜釣様 其外手ニテ居る所作の事  
（国学）——一花生る様 一繪 墨蹟掛卷 一臺天目のミ様 同力すの臺 万臺 一濃茶のミ様 一床へ道具あげさげ  
一こつは かたつき客に成て見る様 一風炉 小板 釜すくにすつる様 同罎炉の内釜いる様 其外手にてする程の  
所作の事（国図）——花いけるやう 繪 墨蹟之懸捲 臺天目茶呑やう 同数臺 万臺 濃茶のむやう 床へ道具あ  
けさる 小壺 肩衝 客に成見やう 風炉 小板釜直ニ居る様 同いろりの内ニ釜釣様 其外手ニテするほどの事  
（箒庵）——一花生様 一繪 墨蹟懸卷 一天目茶呑様 同数臺 万臺 一濃茶呑様 一床へ道具上下 一小壺 肩衝  
客に成見様 一風炉ノ小板釜直ニスユル様 同イロリノ内釜釣様 其外手にて仕程の所作之事（東芸）——一花生様  
一繪・墨蹟懸卷、一天目茶呑様、同数臺・万臺、一濃茶呑様、一床道具上下、一小壺 肩衝客ニ成テ見様、一風炉・  
小板・釜直ニスユル様ニ罎爐裏ノ内ニ釜釣様之外、手ニテ仕程ノ所作之事（土屋家）——一花ヲ生ル様。一繪墨蹟ノ  
懸卷。一臺天目ノ茶ノ呑様。同数ノ臺萬ノ臺同前。一コイ茶ノ呑様。一床へ道具上ケ下シ。一小壺肩ツキ四方盆ニノ  
セ。客ニ成テ拜見ノ仕様。一風爐小板ニ釜ヲスグニ並様。同罎爐裏ニ釜ヲ釣様。其外手仕程ノ所作ノ事也。（茶器）

## 一 會席之事 是も同前

是も同前——是以同前（国学・箒庵・東芸・土屋家）——右二委註畢（茶器）——是以て同前（国図）

## 一 客人振之事 大方口傳ニ申渡候

第一朝夕寄合間成共道具開キ又ハ口切の義ハ不及申 常茶湯成共路地をはいるからハ一期に一度の參會之様ニ亭主をしつして手をつくへき也 公事之儀 世間雜談悉無用也 御茶点前ハ無言 次ニ亭主振之事 客人を底ニ成へき程しつすへし 貴人茶湯の上手之事ハ不及申 不断寄合衆をも名人のことく底ニハ可思 上ヲハイカニモ鹿相ニ可仕 客人呼合專也 道具開ニハ客人歟

客人振之事——客振之事（箒庵）、「大力た一座の内に有初心の者の為に紹鷗語り傳へられたり 但宗易嫌之」——この一節国学のみにアリ、大方口傳ニ申渡候——大方口傳申渡（土屋家・茶器）——国図・箒庵にナシ、第一朝夕寄合間成共——第一朝夕寄合間成トモ（土屋家）、道具開キ又は口切の義ハ不及申——道具のひらき又ハ口切の義不及申（国学・国図・箒庵・茶器）、路地をはいるからハ——露地へ這らるるより達上（国学）——路地へはいるから立迄（国図・茶器）——路地へは入から立ましく（箒庵）——路次江ハイルカラハ立マテ（土屋家）、一期に一度の參會之様ニ——一願ニ一度之參會の様に（国学）、亭主をしつして手をつくへき也——亭主をしつしておつへき也（国学・国図・東芸・土屋家・茶器）——亭主をしつして（箒庵）公事之儀——公事（箒庵）、世間雜談悉無用也——世間雜談甚無用也（国学）——世間の雜談悉く無用也（国図・箒庵）、御茶点前ハ無言——御茶たつ前は無念（国図）、客人を底ニ成へき程しつすへし——客を底にハ成程執すへし（国学）——客を成程しつすへし（国図）——客を底にハ成程しつす（箒庵）、上ヲハイカニモ鹿相ニ可仕——但上をいかにも鹿相にすへし（国学・国図・箒庵・東芸・土屋家・茶器）、客人呼合專也——客人呼合セ專也（国学）——客のよび合セ專なり（国図）——客人呼會を專也（東芸）——客人呼合

也(茶器)、道具開ニハ老人歟——道具抜きハ老人歟(国学・国図)——道具開キハ独力(箒庵)

一 数寄雑談之事 古人申旧候 名物の判 御茶ノ上左 上手ニ廿年ノ越可習事

数寄雑談之事——数寄相談之事(箒庵)、古人申旧候——古人申ふらし候(国学・国図・箒庵)——古人申舊候(茶器)

——古人申渡候(土屋家)、名物の判——名物の批判(国学・国図・箒庵)、御茶ノ上左——御茶之上古(茶器)、上手ニ廿年ノ越可習事——上手に廿年のこへ習へし(国学・箒庵)——上手に廿年之越居へし(国図)——上手ニ越。廿年可習事(茶器)、

一 茶湯ニハ作意第一也 習骨法 普法度 悉雖然云共 非作ナラハ若狭屋宗可 梅雪同前ニテ可果 茶湯仕様之事 習ハ古キヲ專可用 作意い専とス 風躰ハ堪能之先達ニ可任ト也 其節之時代に合様可分別

普法——あまねく之法度(国学)——あまねく法度(国図・箒庵)、悉雖然云共——悉く習ひ尽すと云とも(国学・国

図・箒庵)——悉雖盡ト(茶器)、若狭屋——ワるき之(国学)、茶湯仕様之事——茶湯の(国学)——茶湯ほうやうの

(国図・箒庵)——茶湯仕様之儀(土屋家・東芸・茶器)、習ハ古キヲ專可用——習ひハ古きを専とす(国学・国図・

箒庵)、作意ハ専とス——作意新敷を専とす(国学)——作意は新敷を専とす(国図・箒庵)——作意ハ新専トス(土

屋家)——作意ハ新を専トス(茶器)、風躰ハ堪能之先達ニ可任ト也——風韻和漢の文専トす 先達に任すへしと也(国

学)、其節之時代に合様可分別——其節今の時にあふ様ニ分別すへし(国学)——其節この時にあふ様ニ分別すへし(国

図)——其節く逢ように分別すへし(箒庵)——其節ノ時代ニ合様ニ分前(土屋家)——茶器にナシ

一 茶湯師匠ニ別レテ後 師匠に用る覚悟一切之上 佛法并能 乱舞 力上左 歌道 又下々之所作成共 名人之仕事

を茶湯ノ手本ニ取ル也 茶湯ハ禅衆より出てたるによりて禅衆ノ学ヲ専ニス 第一侘数寄せん也 又茶湯師匠ニ成ル覚

悟 茶湯廿年抛身 我茶湯者 茶湯之義ハ坊主をせましきとて逼塞スル目利ヲハ自ら天下から呼出ス也 又我茶湯をハ

## 取乱天下へ出 坊主顔スル者ハ梅雪同前也

茶湯師匠ニ別レテ後——茶湯の師匠にわかれて後（国図・土屋家・茶器）——茶湯の師にわかれて後（箒庵）、力上左——刀の噂（国図・国図・箒庵）——刀上左（東芸・土屋家）、手本ニ取ル也——手本ニ取候なり（東芸）、禅衆より出てたるによりて——禅宗より出たるにより（国図・箒庵）——禅衆ヨリ出タルニヨツテ（土屋家）、禅衆ノ学ヲ專ニス——そのかくを專にす（国図）、第一佗数寄せん也——第一佗数奇なり（国図）、又茶湯師匠ニ成ル覚悟——又茶湯の師匠になる覚悟ハ（国学・箒庵）、茶湯卅年抛身——茶湯に三十年身を投て（国学・箒庵）——茶湯に三十年身をなげ（国図・茶器）——卅年抛身（東芸）、我茶湯者——我茶湯を嗜也（国学）我力茶湯をたしなミ（国図・箒庵）——我茶湯ヲ嗜ミ（茶器）、茶湯之義ハ——茶湯之儀（国学・国図・茶器・土屋家）、自ラ天下から呼出ス也——自分天下から呼出ス也（国学）——おのづから天下から呼出スなり（国図）——おのづから天下より呼出也（箒庵）——天下から呼出ス也（茶器）、

一 茶湯座敷にてせましき雑談 此哥二

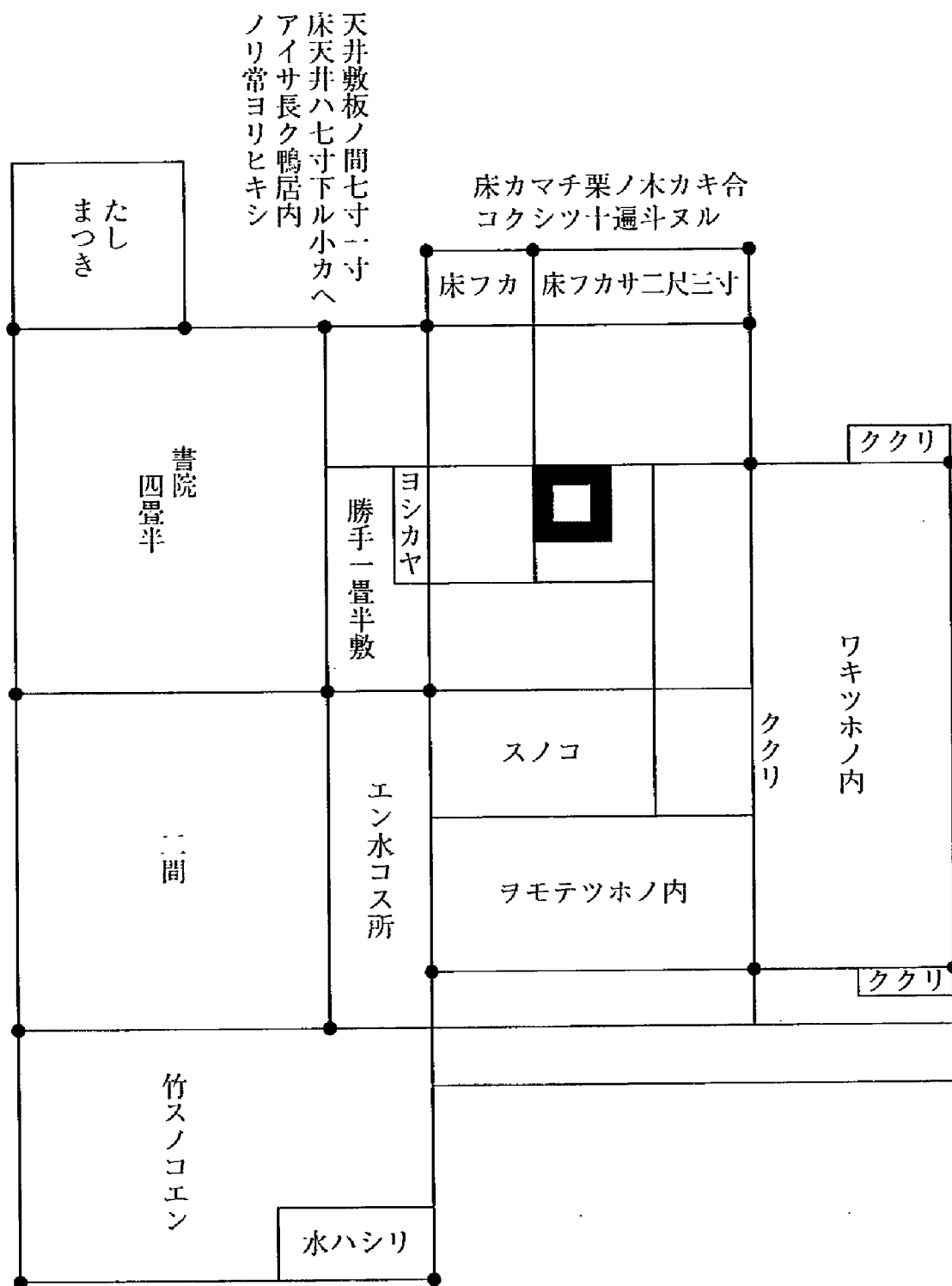
我佛 隣の寶 聳しやうと 天下軍 人のよしあし

せましき雑談 此哥二——せましき雑談ハ此哥二に在（国学・国図・箒庵）——せましき雑談 此歌ニ有（東芸・土屋家・茶器）、天下軍——天下の噂（国学）、人のよしあし——人ノ（土屋家）、夢庵の御作也——八重柏・国学・国図にナシ

一 茶湯上手ニ成テ入事也 初心の時 此五ツの覚悟を持ハ一期不上下手にて果也 一さひた 一こひた 一たけた  
 一わひた 一ひよんな作者是を專ニス けハ茶湯不上也 右のことく上手ニ成テ第一入事也  
 入事也——入事（国学・国図・箒庵）、下手にて果也——上手ニテ果候也（茶器）、一さひた 一こひた 一たけた

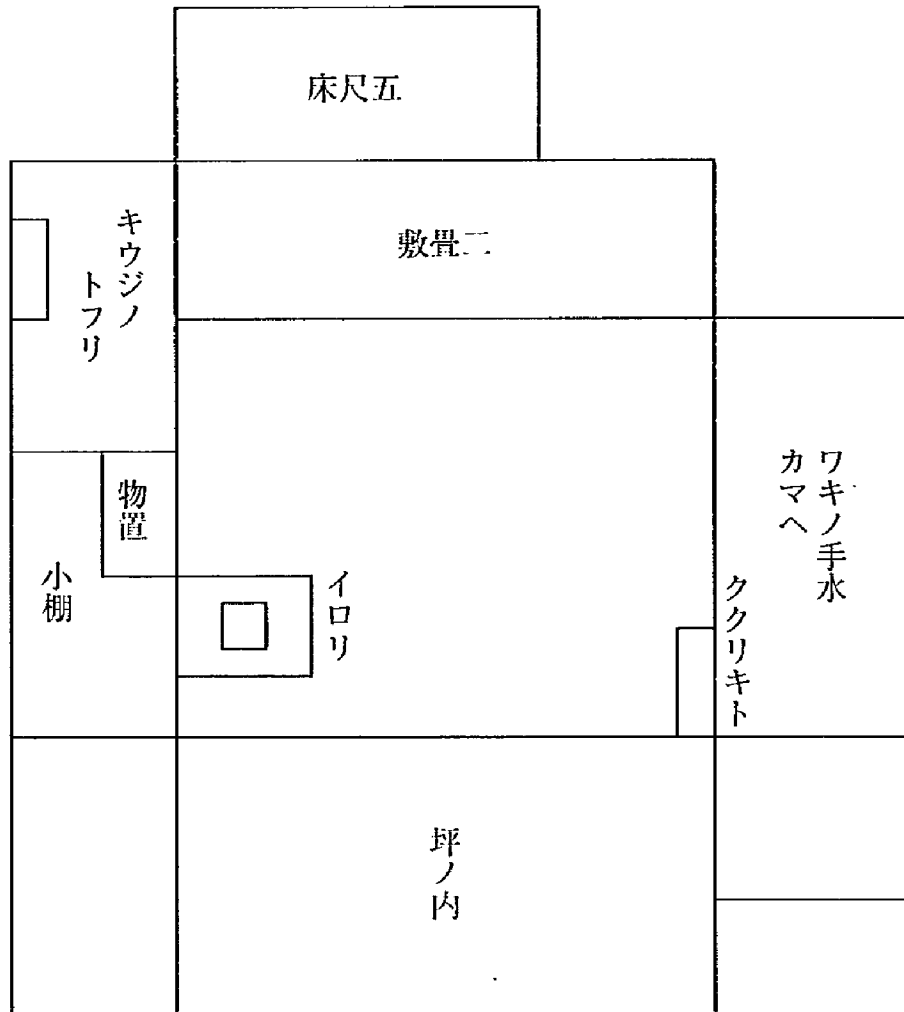
一わひた 一ひよんな—— コピタ タケタ サピタ ワピタ ヒヨンナ (国学・国図)、作者是を専ニす——作者ヲ専ニス (茶器)、けハ茶湯不上也——れハ茶湯あからざる也 (国学)——茶湯あからざる也 (国図)——けはあからざる也 (箒庵)——ケハ茶湯不上也 (茶器)、右のことく上手ニ成て第一入事也——但右の覚悟上手になりてハ第一入る事也 是十体也 (国学)——右のことく上手になりては第一入る也 是十体なり (国図)——右悉上手に成てハ第一入事也 是十体也 (箒庵)——如右上手ニ成テハ五ツ第一入一也。是十體也 (茶器、尚茶器は、この後次の項を記す。「孔子曰。十五而初學。卅而名立。四十而不迷。五十而知天命。六十而隨耳。七十而從發心處不越法。此語紹鷗密傳ス。」)

(八重柏の座敷図)



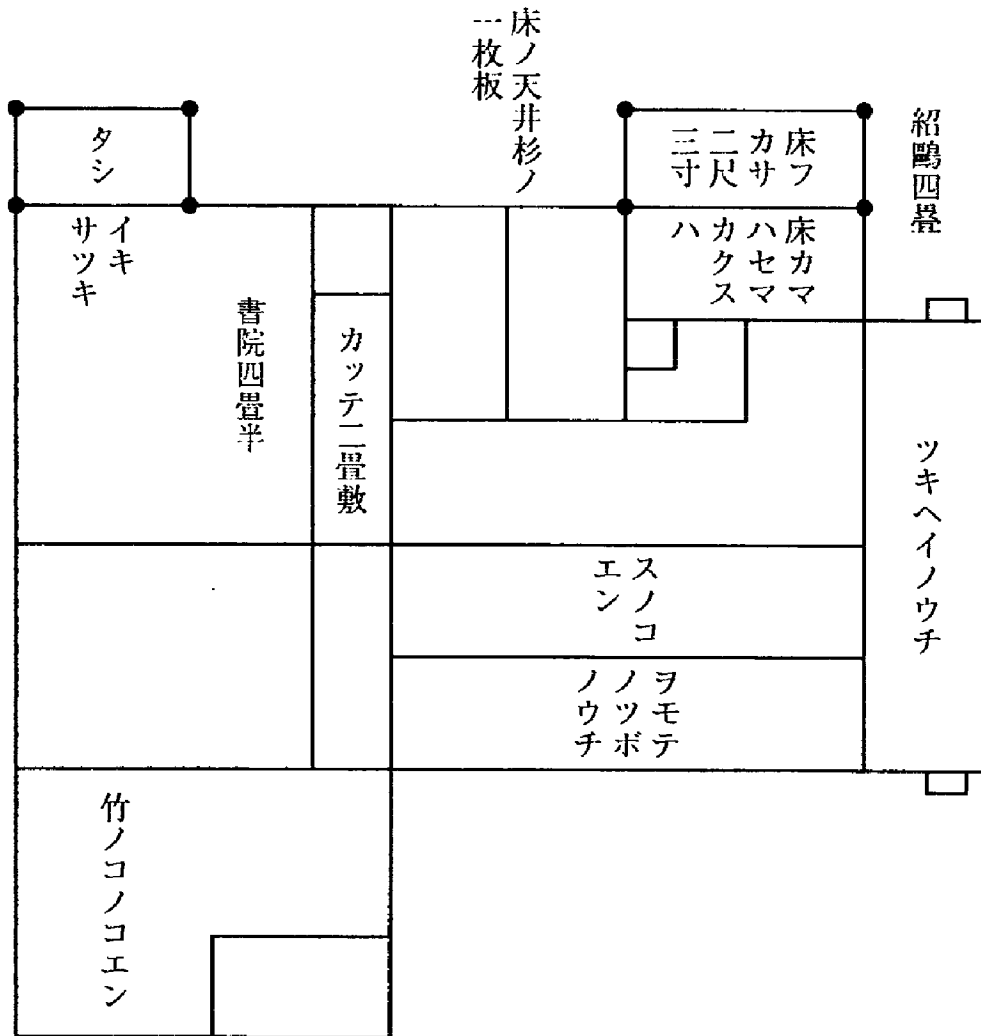
(国学の座敷図)

細長三畳鋪  
宗易大坂座敷の  
うつし也道具持茶  
湯功者ハ仕之佗敷  
奇初心成る茶湯ハ  
無用也

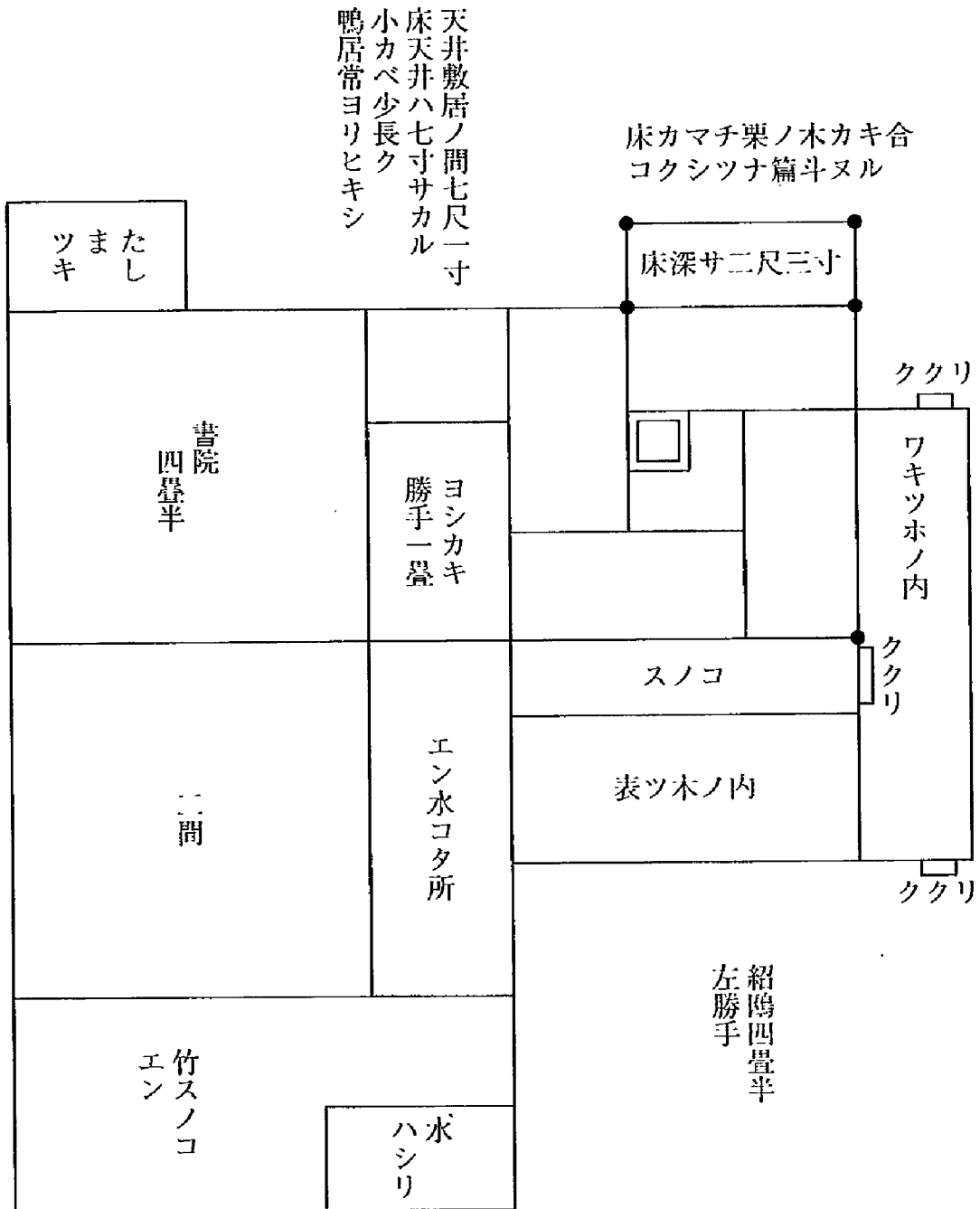




(国図の座敷図)

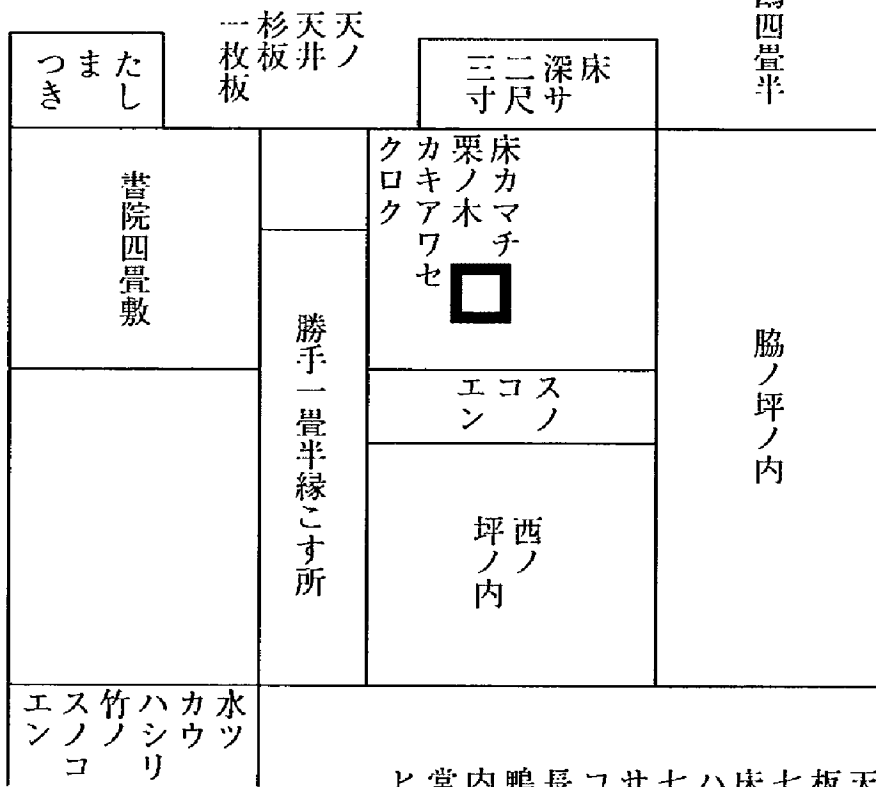


(東芸の座敷図)



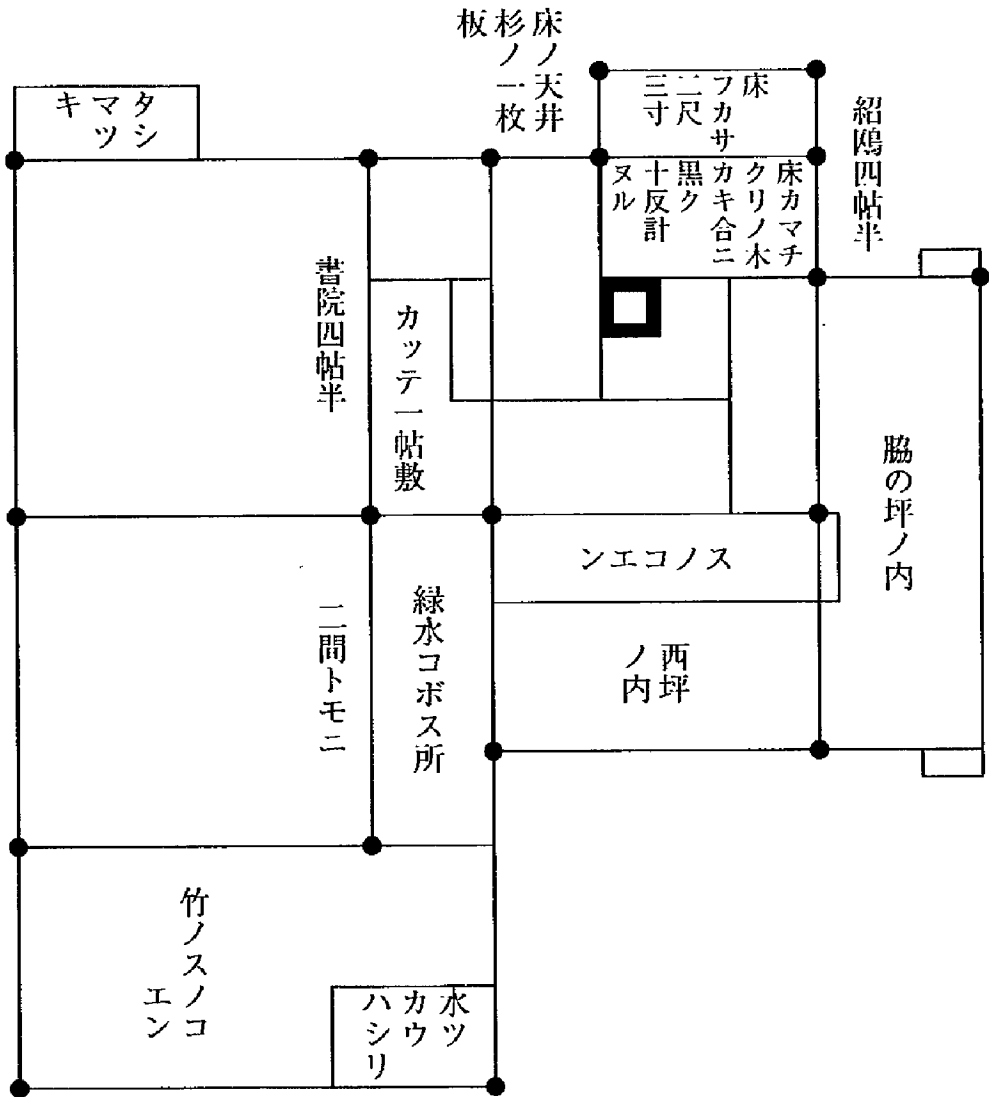
『山上宗二記』の諸写本の比較研究(四)

(土屋家の座敷図)



天井敷  
板ノ間  
七尺一寸  
床天井  
ハ  
七寸  
サカル  
コカヘアイ  
長ク  
鴨居  
内法  
常より  
ヒキシ

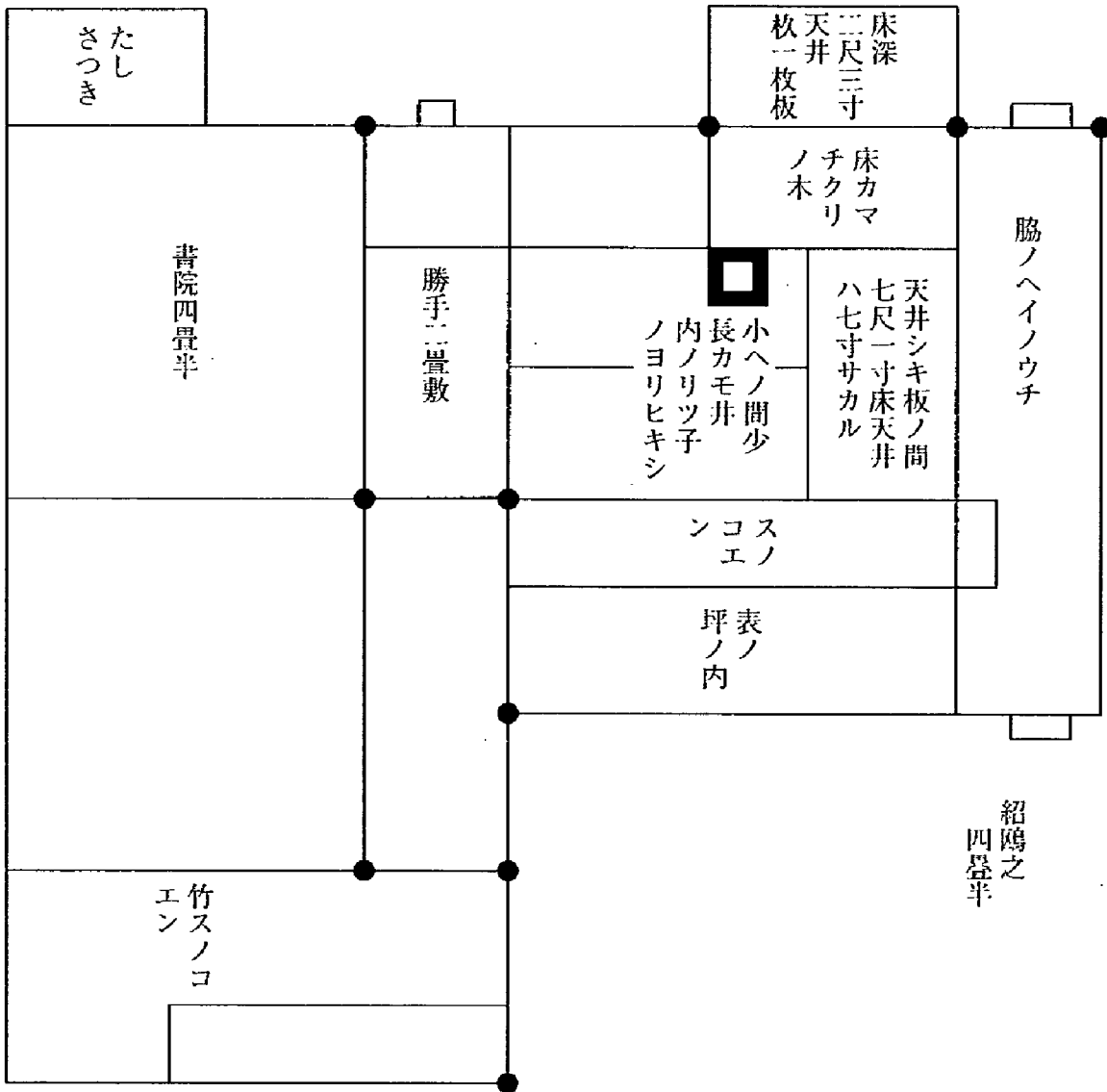
(茶器の座敷図)



天井敷板ノ間七尺一寸。床天井ハ七寸サガル也。コカベノアイ少長ク。カモイウチノリ常ノヨリロシキ。

『山上宗二記』の諸写本の比較研究(四)

明治大学教養論集 通卷二八七号（一九九六・三）  
（箒庵の座敷図）



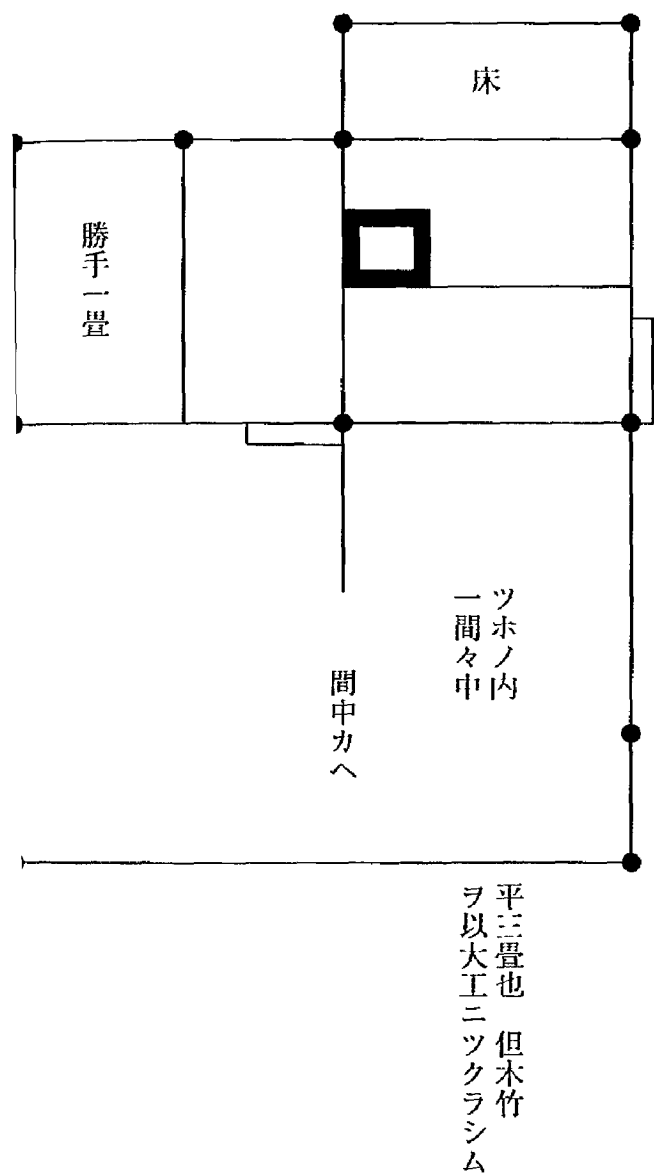
此座敷紹鷗ノ移シ也 北向坪ノ内 又ハ見越ニ松大小多シ 天井ノ柵板 柱檜 真ノはり付 くるふち有 勝手ふす  
 ま障子 木引手 書院二間共ニ四疊半 其後宗久 宗易 宗瓦 宗及 此外唐物持 京 堺ニ悉ク是を移シ 紹鷗掛リ  
 ハ北向也 又宗易ハ南向をすく 昔ハ珠光北向右勝手 坪内ニ大成柳耆本有 後ニ松原廣シ 松風を聞 引拙ハ南向右  
 勝手 道陳ハ東向右勝手

此座敷紹鷗ノ移シ也——右之座敷紹鷗ノ写也(国学)——右之座敷ハ紹鷗ノ写也(国図)——右此座敷ハ紹鷗ノ移シ也  
 (土屋家)——右座敷紹鷗ノ移也(東芸)——右此座敷紹鷗ノウツシ也(茶器)、北向坪ノ内——但北向壺之内(国学・  
 国図・箒庵・茶器・土屋家)、天井ノ柵板——天井ノ根子・板(土屋家)、柱檜——柱檜(国学・国図・箒庵・茶器)  
 ——柱(土屋家)、くるふち有——黒ソチ有(土屋家)、木引手——横引手(国学・国図・箒庵)——黄引手(茶器・  
 土屋家)、書院二間共ニ四疊半——二夕間とも四疊半(国学)——書院二間ともに四疊半也(国図・箒庵・東芸・土屋  
 家・茶器)、宗瓦——宗庵(国学)——宗凡(茶器)、此外唐物持——此外の唐物持(国学・箒庵・土屋家・茶器)——  
 此外なり唐物持(国図)、京 堺ニ悉ク是を移シ——京 堺に悉く是を写す(国学・国図・箒庵・茶器)——京 堺悉  
 是ヲ移ス(土屋家)——京 堺に悉移し(東芸)、紹鷗掛リハ北向也——但シ紹鷗かかりハ北向(土屋家)、又宗易ハ  
 南向をすく——宗易ハ南向を好く(国学・国図・箒庵)、昔ハ珠光北向右勝手——昔も珠光ハ北向勝手也(国学)——  
 昔も珠光は北向右勝手なり(国図)——むかし珠光右勝手北向(箒庵)——昔も珠光北向右勝手(東芸)——昔も珠光  
 ハ比向右勝手(土屋家)、坪内ニ大成柳耆本有——坪の内に大なる柳の木一本有(国図)——坪の内に大なる柳一本(箒  
 庵)、後ニ松原廣シ——後ニ松原廣ト(国学)——後ニ松原廣々(土屋家)、松風を聞——松風斗を聞(国学・国図・  
 箒庵・土屋家・東芸・茶器)、

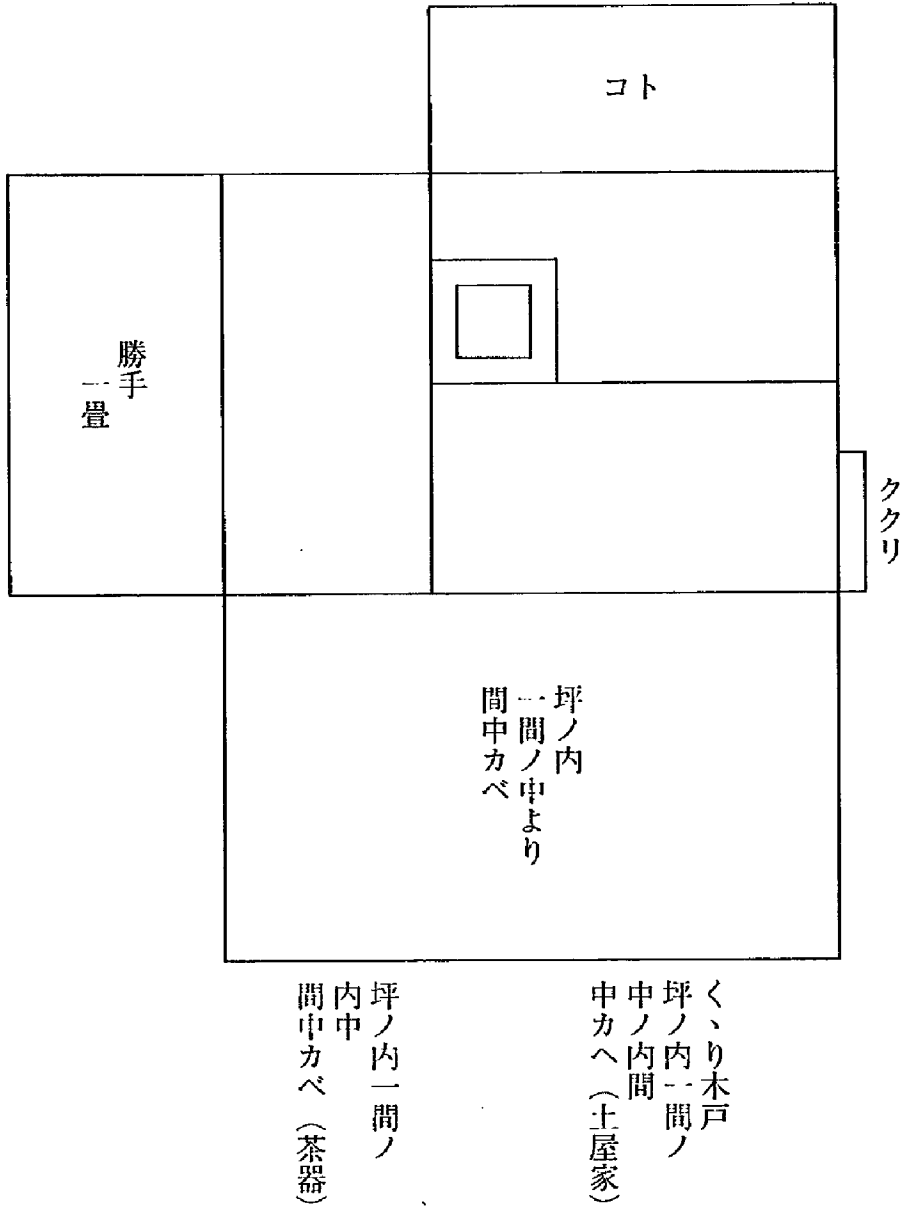
一 宗達右勝手 何も道具ニ子細有力 又臺子をスクカ 當時紹鷗流から悉左勝手也 右勝手を不用ト也 珠光八四疊半 引拙八八疊敷也

宗達右勝手——宗達モ右勝手 (茶器、尚八重柏のみ項を改めている)、何も道具ニ子細有力——何れも道具に子細有り (国学・茶器)、又臺子をスクカ——又八臺子を好歟 (国学・国図)、當時紹鷗流から悉左勝手也——當時紹鷗 利休から悉左勝手也 (国学・国図)——當世紹鷗 利休ハ悉左勝手也 (箒庵)——當時紹鷗ノ流カラ悉左勝手 (茶器)、右勝手を不用ト也——右勝手を不用 (国学・国図・箒庵)——右勝手ハ不用也 (茶器)——右勝手ヲ不用也 (土屋家)、珠光八四疊半 引拙八八疊敷也——珠光八四疊半 引拙八八疊なり (東芸)——国学・国図・箒庵・茶器・土屋家にナシ

(八重柏・東芸の座敷図)

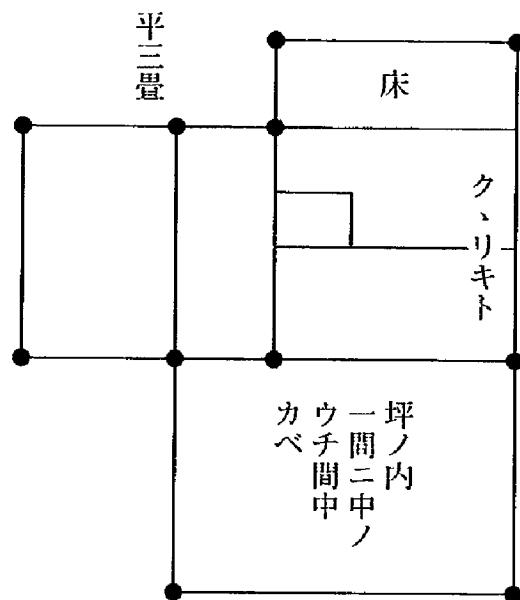


(国学の座敷図)





(国図・箒庵の座敷図)

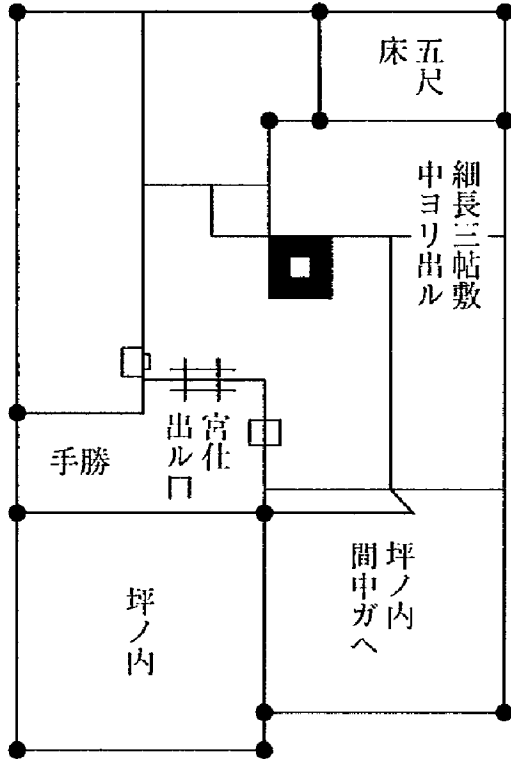


三畳敷ハ紹鷗ノ代迄ハ道具無ノ佗数寄専トス 唐物一種成共持候者ハ四畳半ニ悉ク座敷ヲ立 宗易異見候共廿五年以来紹鷗ノ時二同 當関白様御代十ヶ条ノ内上下悉ク三畳敷 二畳半敷 二畳敷用之 され共昔珠光被申候ハワラヤ二名馬ヲツナキタル好ト旧語ニ有 旧ハ名物ノ道具ヲそそう成座敷ニ置タルハ當世ノ風躰猶以面白キ歟

三畳敷ハ紹鷗ノ代迄道具無ノ佗数寄専トス——但三畳敷ハ紹鷗の代迄道具なしの佗数寄専にす (国学)——三畳敷ハ紹鷗の代までハ道具なしの佗数寄専にす (国図・箒庵)、唐物一種成共持候者ハ——唐物一種にても持者ハ (国学)

——唐物一種二而も持者ハ (箒庵)——唐物一種成共持候ハ、(土屋家)、四畳半ニ悉ク座敷ヲ立——四畳半ニ悉ク座敷敷を立る也 (国学・東芸)——四畳半ニ悉座敷を立る (箒庵・土屋家・茶器)、宗易異見候共——宗易異見申 (国学)

——宗易異見申候 (国図・箒庵)——宗易異見候 (土屋家・東芸・茶器)、當関白様御代十ヶ条の内上下悉ク——當関

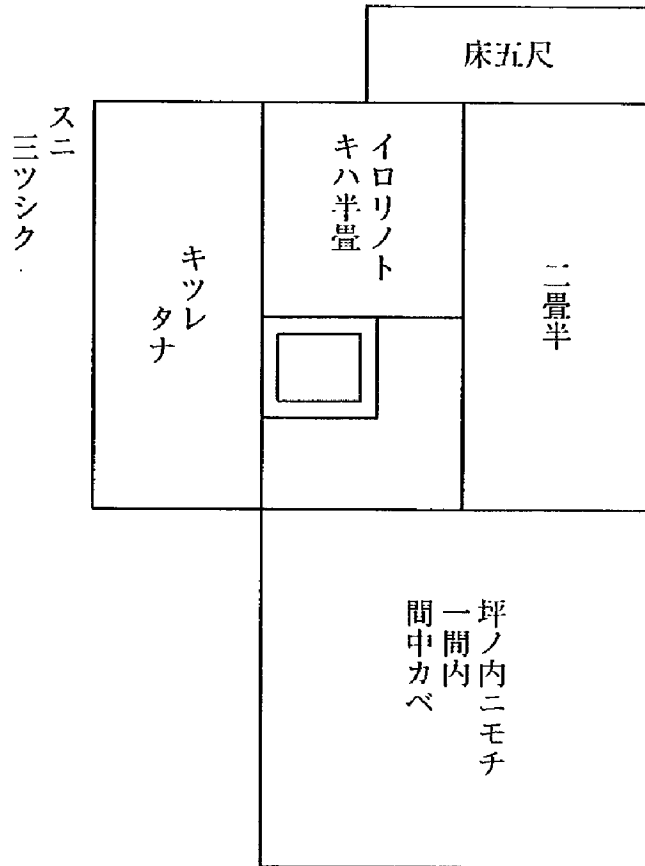


(茶器の座敷図)

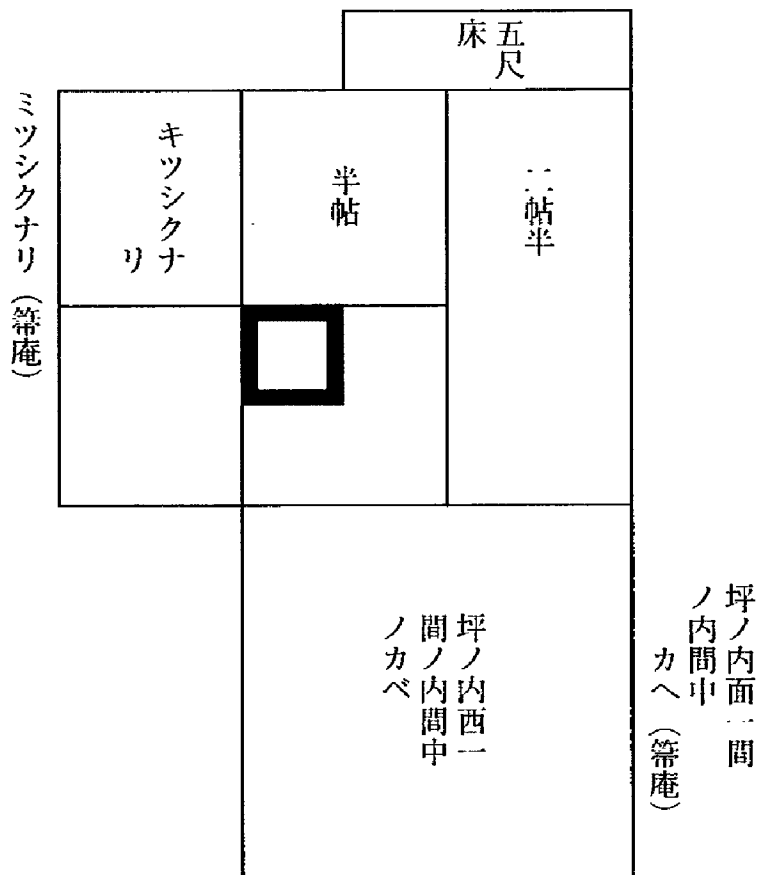
白様御代七年之内上下悉ク(国学)——當関白様御代十ヶ年の内上下悉(国図・箒庵・土屋家・東芸・茶器)、三畳敷  
 二畳半敷 二畳敷用之——三畳 二畳半 二畳用る也(国学)——三畳敷 二畳半 二畳敷用也(国図・箒庵)、旧語  
 二有——古き物語に有ハ(国学)——古き物語に或時は(国図・箒庵)——旧説二有時ハ(東芸・土屋家)——舊語二  
 有時ハ(茶器)、旧ハ名物ノ道具ヲそそう成座敷ニ置タルハ——名物の道具を鹿相なる座敷に置たるハ(国学・東芸  
 ・土屋家)——名物の道具を鹿相なる座敷に置ハ(国図)——名物の道具を鹿相成座敷ニ悉たるハ(箒庵)——名物ノ  
 道具ソサウナル座敷ニ置タル(茶器)、當世ノ風躰猶以面白キ歟——當世風体ハ尚以面白し(国学)——當世一段面白  
 く(国図)——當世の風躰カ尚以おもしろく候なり(箒庵)

此二畳半之事 紹鷗之時八天下二一ツ 山本助五郎ト云人 紹鷗一之弟子也 其人二好ニテ茶湯ヲさせられし侘数奇也 開山ト云蓋置ノ五徳一種持 當時ハ此五徳も藤コフノ五徳モ不用

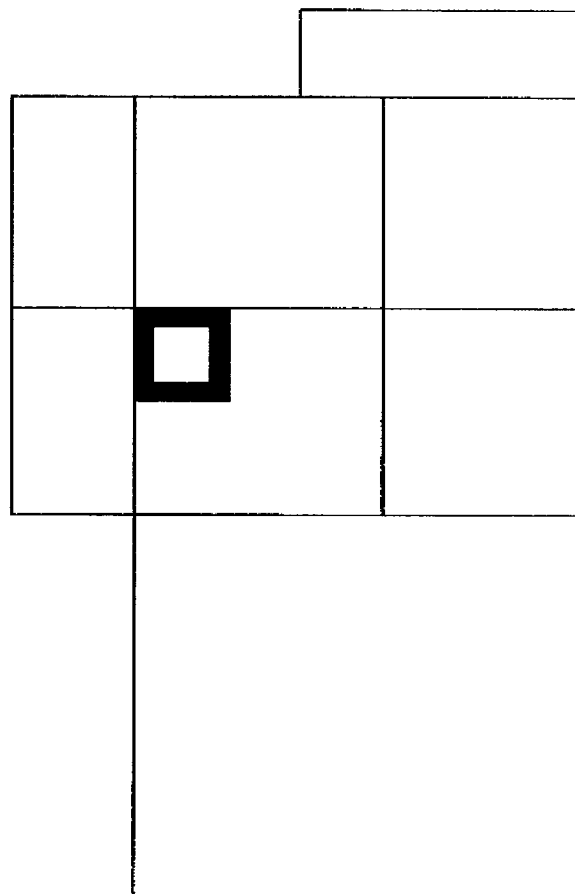
(国学の座敷図)



(国図と箒庵の座敷図)

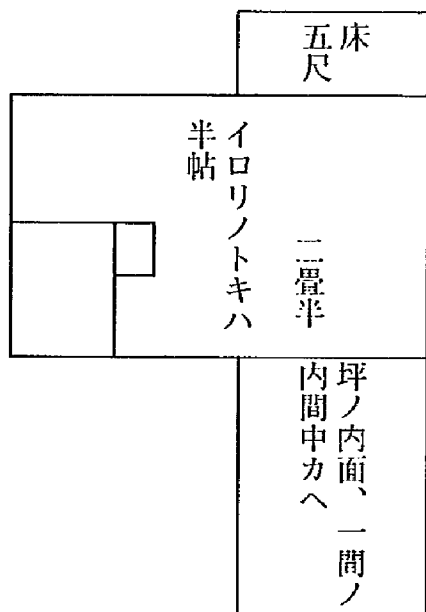


（東芸の座敷図）

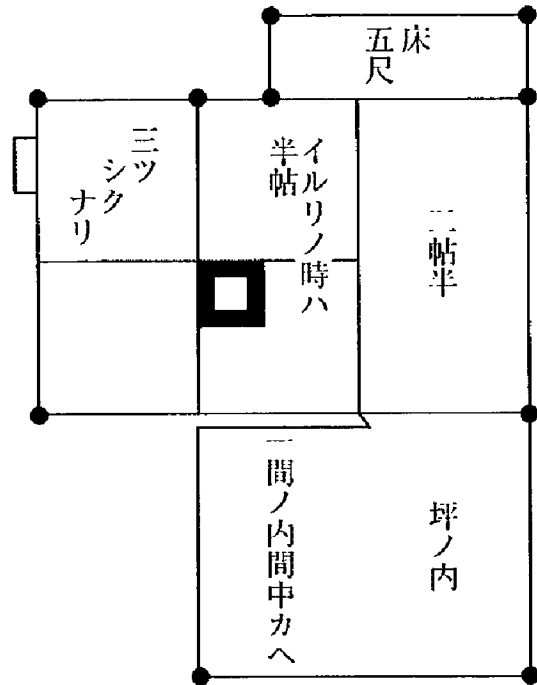


二畳半

（土屋家の座敷図）

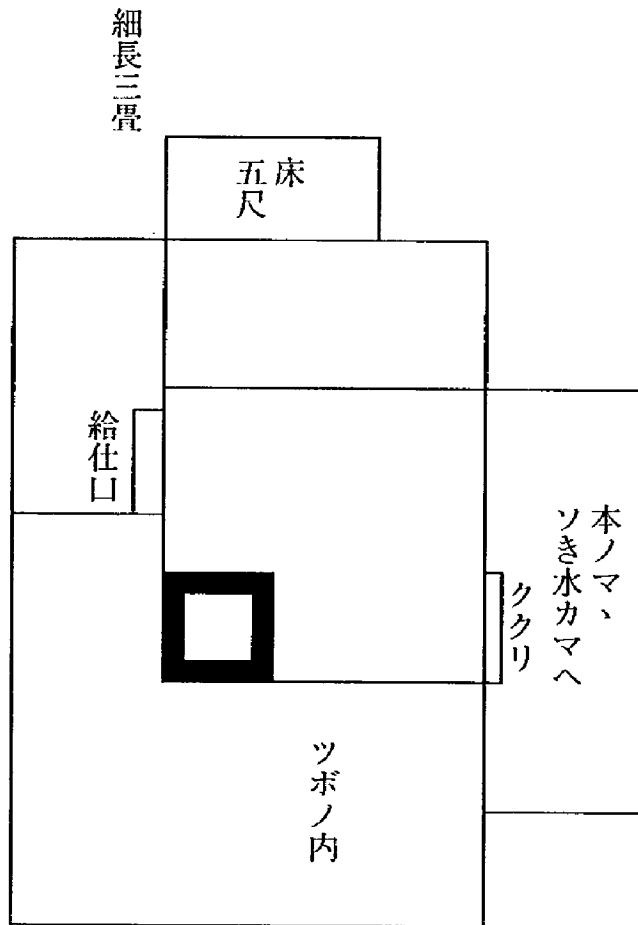


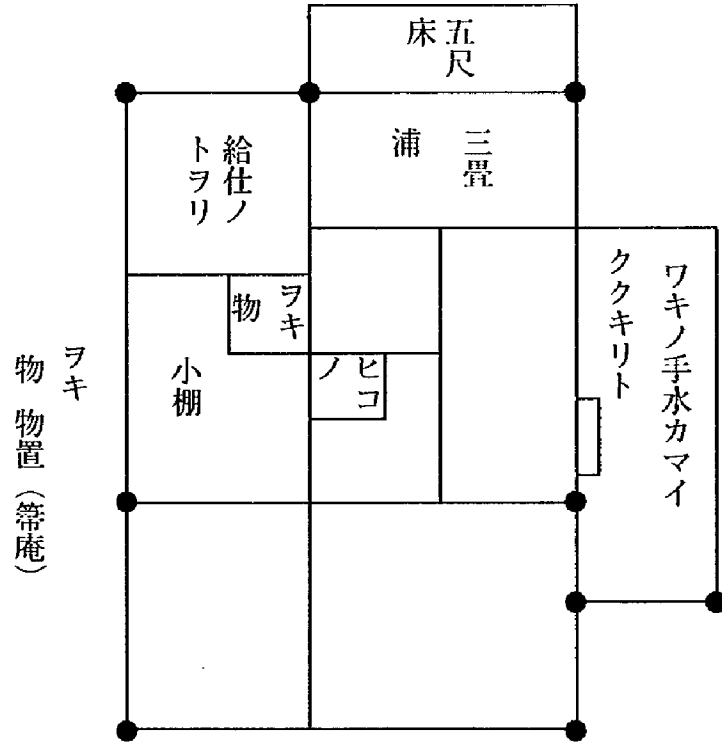
(茶器の座敷図)



此二畳半之事——二畳半之事 (国学)——此二畳半 (箒庵)、紹鷗之時天下二一ツ——紹鷗の時天下二一 (国学)、紹鷗一之弟子也——紹鷗の一ノ弟子也 (国学・箒庵・東芸)——紹鷗の弟子なり (国図)、其人二好ニテ茶湯ヲさせられし侘数寄也——其人好にて茶湯させられし侘すき也 (国学・国図・箒庵)——其人に好て茶湯をさせられし侘数寄也 (東芸)——其人に好ル茶湯サセラレシ侘数寄也 (土屋家)——其人二好テ茶湯ヲサセラレ候也。侘数寄也 (茶器)、蓋置ノ五徳一種持——蓋置の五徳所持 (国学)——蓋置の五徳一種にもつ (箒庵)——蓋置之五徳一種二持 (東芸・土屋家・茶器)、當時ハ此五徳も藤コフノ五徳も不用——但當世ハ此五徳もふちこぶの五徳も不用 (国学)——但當時ハ此五徳もふちこぶの五徳も不用 (国図・土屋家・茶器)——當時は此五徳もふちこぶのことくも不用 (箒庵)

（八重柏の座敷図）

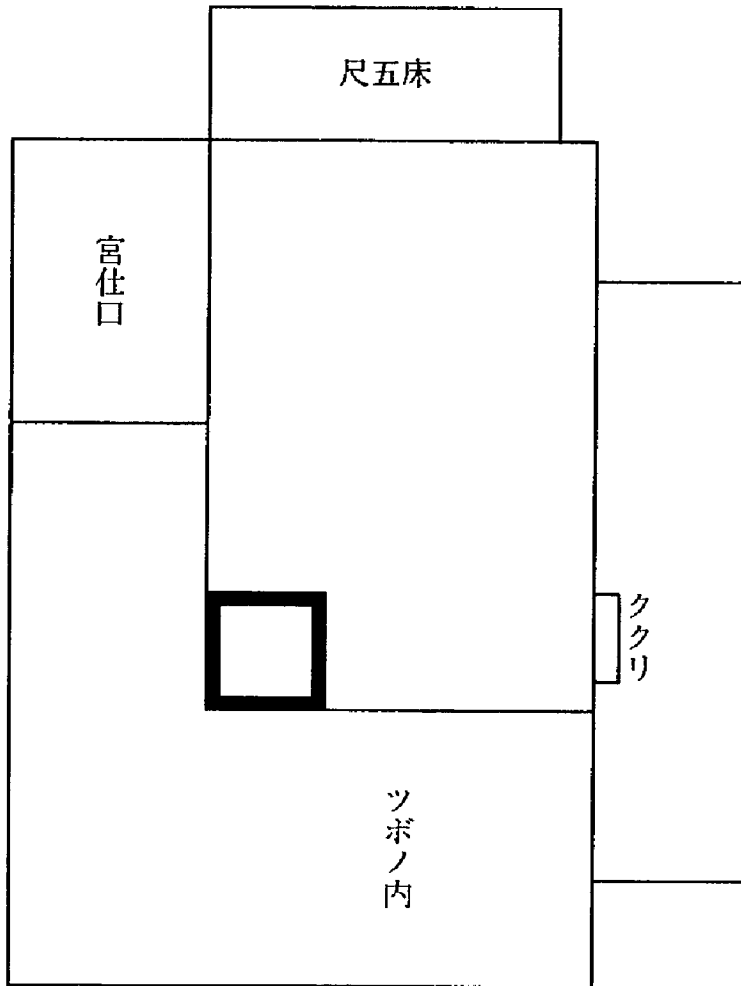




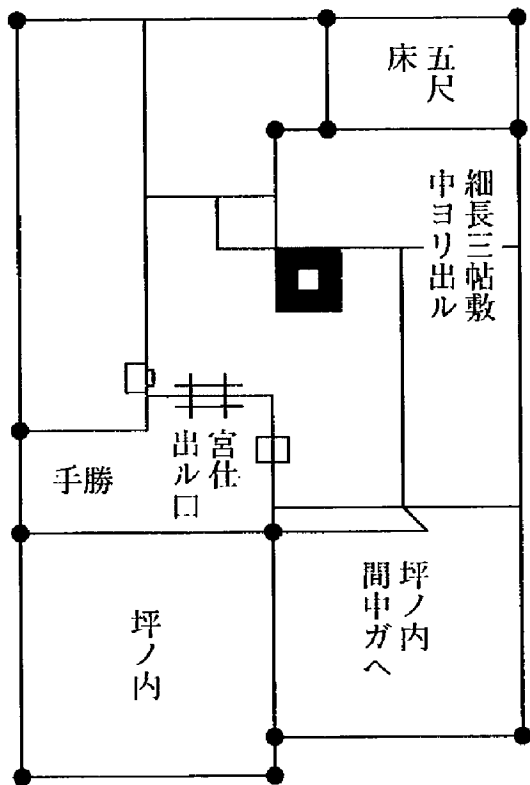
(国図と箒庵の座敷図)



(東芸の座敷図)



(茶器の座敷図)



(国学と土屋家に細長三畳の図ナシ)

細長ク三畳敷 宗易大坂ノ座敷移也

但道具物茶湯の後者仕也 佗数寄初心成茶湯ニハ無用歟

細長ク三畳敷——ほそなかき三畳敷（国図）——細長い三畳敷（箒庵・茶器）、宗易大坂ノ座敷移也——宗易大坂の座敷悉写シナリ（国図）、但道具物茶湯の後者仕也——但し道具持茶湯の功者は仕也（国図）——但道具持茶湯の切者ハ仕也（箒庵）——但道具持茶湯切者仕候也（東芸）——但し道具茶湯之後者仕也（土屋家）、佗数寄初心成茶湯ニハ無用歟——佗数寄初心なる茶湯ハ無用歟（箒庵）

一 式畳敷ノ座敷閑白様ニ在 是ハ貴人力名人力 扱ハ一物も不持佗数寄力 此外平人ニハ無用也 又宗易京ニ一畳半ヲ始テ作られ候 當時珍事也 是も宗易老人の外ハ如何 孔子曰 及七十從心所欲不踰矩 此語ヲ宗易常思 主名人ニ身ヲ赦シ 山ヲ谷西ヲ東ト茶ノ湯ノ法度ヲ破リ 物ヲ自由ス 但宗易老人之事ハ目聞成に依テ何事も面白ク 平人宗易ヲ其儘似セたらば邪道ト云々 茶湯ニテハ有間敷候 但宗易ニ骨ヲくたき身をくたく力 又ハ金銀山ニ積力 別而氣ニ入タラハ其上ニテ 主年比重道具様子其身ニ似様ニ茶湯可為 相傳者也 如此心持ならハ上手ニ可成事眼前歟

式畳敷ノ座敷——二畳敷座敷（国学・東芸・土屋家）、扱ハ一物も不持佗数寄力——さてハ一物持ため佗数寄力（国学）——さてハ一軸もため佗数寄ハ（箒庵）——又者一物モ持候佗数寄か（土屋家）、此外平人ニハ無用也——平人ハ無用也（国学・箒庵）、又宗易京ニ一畳半ヲ始テ作られ候——又宗易京ニ一畳半敷を始めて作られ候（国学）——又宗易京に一畳半を初て被作（箒庵）、是も宗易老人の外ハ如何——是も宗易一人の外ハ無用也（国学）、及七十從心所欲不踰矩——七十にして心の欲する所に従へとも法をこえず（国学・国図・箒庵）——及七十從心所不越法（土屋家・茶器）、此語ヲ宗易常思——此語を宗易常に思ひ（国学・国図・箒庵）——此語ヲ宗易常ニ思召（土屋家）、主名人ニ身ヲ赦シ——主を名人に身をゆるし（国学・国図）——ぬし名人に身をゆるし（箒庵）、山ヲ谷西ヲ東ト茶ノ湯ノ

法度ヲ破リ——山を谷に西を東と茶湯法度を破リ（国学）、平人宗易ヲ其儘似セたらば邪道ト云々——平人宗易其儘にせハ邪道と云々（国学・箒庵）、茶湯ニテハ有間敷候——茶湯ニテハ在ましきもの也（国学・箒庵・茶器）——茶湯を（国図）、但宗易に骨ヲくたき身をくたく力——宗易に骨を碎き身を破る可（国学）——くたき身をくたく力（国図）、又ハ金銀山二積力——又ハ金銀を山に積力（国学・国図・箒庵）、主年比重道具様子其身ニ似様ニ茶湯可為——主の年比重の道具用 其身に似合也と申者に茶湯（国学）——ぬしの年比ぬしの道具様子其身に似るやうに茶湯（国図）——主の年頃ぬしの道具様子其身に似合様に茶湯（箒庵）——主年比主道具様子其身ニ似様ニ茶湯（土屋家）——主ノ年比。主ノ道具様。其身ニ似様。今ニ茶湯可為（茶器）——主年比重道具の様子其身に似ル様ニ茶湯可為（東芸）、相傳者也——相傳たるへきもの也（国学・国図・箒庵・土屋家）、如此心持ならハ上手ニ可成事眼前歟——如此の心さしならば上手ニ可成事眼前也（国学）——かくのことく心持ならば上手になるへき事眼前力（国図・箒庵）——如此心持ナラハ十一年ニ可成事眼前也（土屋家）、

一 山上宗二大坂ノ座敷深三疊敷也 右座敷の指図五ツ六ツ仕候 此外作事八百八百なからちくく替もの也

當時ハ大方此一本之通敷

深三疊敷也——細長キ三疊敷也（国学）——ほそ長き三疊敷の間（国図・箒庵）——細長三疊ジキ也（茶器・土屋家）、右座敷の指図五ツ六ツ仕候——図左ニ記座敷指南五ツ仕候（国学）——左に記座敷の指南五ツ仕候（国図・箒庵）——右座敷の指図六ツ仕候（東芸・茶器）——右座敷之差図五ツ仕候（土屋家）、此外作事八百八百なからちくく替もの也——此外作事八百に百なから少し替り候もの也（国学）——此外作事八百力百なりに少々替るもの也（国図）——此外作事八百八百なから少ししかハるもの也（箒庵）——此外作事八百八百ナカラチクニ替物也（土屋家）、當時ハ大方此一本之通敷——当世ハ大方此一ツ書の通ハ宗二大坂の座敷の間さし図五ツの外也（国学）——当世によらハ大方此一

ツカ記の通りカ（国図）——当世八大方此一ツ書く通力（箒庵）——當世八大方此一書之通力（土屋家・東芸・茶器）

一 丸柱妻松つきは栗の木カ

つきは栗の木カ——皮付ル同栗敷（国学）——皮付同栗の木カ（国図・東芸）——皮かつき同栗の木カ（箒庵・土屋家）

——之皮カツキ。同栗ノ木敷（茶器）

一 四方物八堺二有ルひはたすぬけ枚けたカ

堺二有ル——堺にあり（箒庵・茶器）、ひはたすぬけ枚けたカ——ひぬけ杉けた敷（国学）——ひはさすぬけ板けたカ（国図）——ひはさすぬけ枚けたカ（箒庵・東芸・土屋家・茶器）

一 床力まち京丸太檜ノ皮ムキ 床四方

床力まち京丸太檜ノ皮ムキ 床四方——床のかまち京丸太檜の皮付 床四分之一（国学）——床かまち京丸太檜の皮むき 床四分之一（箒庵・茶器）——土屋家にナシ（尚国学・箒庵は茶室材料の項目を別項とせず、「山上宗二大坂ノ座敷……」の項に入れてしまっている。）

一 珍敷竹柱すく人も有 おとしかけ枚ケタ

（土屋家にはこの条項から十行程欠）

一 天井コモノ色付 堺二有 に力竹式本宛双てうつ 一間の間二十三通 但廻りふち八唐竹也 同高サ六尺五寸六寸の間も数寄次第 床かまち京丸太檜のヒンムキ

に力竹式本宛双てうつ——にか竹二本ツム並へて打（国学・国図・箒庵）、一間の間二十三通——一間半に十三通り（国学）——巻間半の間に十三通り（国図）——一間ま中の間に十三通（箒庵）——間中の間に十三通（東芸）——一間間中ノ間二十三通（茶器）、同高サ六尺五寸六寸の間も数寄次第——同高サ六尺五六寸の間好き次第（国学）——同高

サ六尺五寸六分の間すき次第（国図）、床かまち京丸太椿のヒンムキ——床かまち京丸太桧のひきむき（国学）——床かまち京まるたひの木のひんむき（箒庵・茶器）——床かまち京丸太檜のひんぬき（国図）

一 二帖半 平三帖成 細長三帖敷大方同作也 少宛替ル事八作分次第

二帖半 平三帖成 細長三帖敷——二畳半 平三畳 細長三畳（国学）——二畳之半 平三畳 細長三畳敷（箒庵）

——一畳半 平三畳敷 細長三畳敷（東芸）——二畳平。平三畳敷。細長三畳敷（茶器）——国図にナシ。少宛替ル事八作分次第——少々ツゞ替りたる事作次第也（国学）——少宛かわる事八作次第（箒庵・茶器）

一 宮仕之事 唐物持八児の様成ル子ヲ 若衆出立ニして力 又ハ喝食力 又十二三成沙弥 是ハ誰も似合候 當時二畳半持程の佗数寄八亭主も宮仕可然

宮仕之事——給仕之事ハ（国学）——国図・土屋家はこの項数行欠、又ハ喝食力——又喝食力（箒庵）、又十二三成沙弥——又八十二三成志やミ（国学）、是ハ誰も似合候——是ハ誰にも似合候（国学・茶器）、当時——當世（箒庵）、亭主も宮仕可然——亭主給仕可然（国学・箒庵）、

一 當世ハ唐椀 鉢子 つはめ口の椀 黒椀 精進椀 皿もことくくぬりものをつかふなり 堺空願 奈良の才次郎在

鉢子——鉢の小（国学）、つはめ口の椀 黒椀 精進椀 皿もことくくぬりものをつかふなり——燕口の黒椀 皿も悉くぬり物を遣ふ也（国学）——燕口椀 黒椀 皿もことくくぬり物を遣なり（箒庵）

一 折敷 つはめ口の皆朱 本膳 小膳 此外すひもん くり色の折敷 数色々有 是も右の二間ニ有 但数寄くくと申なから 椀 折敷ハ新キ力賞翫也 貴人へハ木具可然 付箸京の白箸 揚枝柳 次ニ小板も空願にあり

本膳 小膳——本膳 二ノ膳（国学）、是も右の二間ニ有——是も右の二軒ニ有（国学・箒庵）——是も右ノ二家ニ有

『山上宗二記』の諸写本の比較研究（四）

(茶器)、貴人へハ木具可然——貴にハ木具然へし(国学)——貴人ハ木具可然(東芸)、付箸京の白箸——箸ハ京の白箸(国学)、揚枝柳——揚枝ハ柳(国学・箒庵)——枝柳(土屋家)、次ニ小板も空願にあり——箒庵にナシ。

一 茶湯之小道具 自在 柄杓兩種 堺養泉房二有 京二而八作雲柄杓吉 同代

茶湯之小道具——茶湯小道具(国学)、自在 柄杓兩種——次第柄杓兩種ハ(国学)、堺養泉房二有——堺良養泉房二有(土屋家)、京二而八作雲柄杓吉——京にてハさくそん柄杓のよし(国学)、同代——同代也(国学・箒庵)

一 真ノ手桶 夏目兩種 盛阿弥

真ノ手桶——真手桶(国学・箒庵・東芸・茶器・土屋家)、夏目兩種——棗兩種(国学)——棗々(箒庵)、盛阿弥——盤阿弥二有(国学・箒庵・茶器)——盛阿弥有(土屋家)、

一 天下一ノ茶桶(八重柏にナシ) 下京藤意二有 なり 比 宗易流

天下一ノ茶桶——天下一茶桶(国学)、下京藤意二有——下京道意二有(国学)——下京とういにあり(箒庵)、なり 比 宗易流——成比宗易也(国学)——形頃宗易流也(箒庵)——ナリ 比宗易ノ流(茶器)

一 奈良風炉 西京宗四郎二有五 徳ナリの天下一休息二有

奈良風炉——同風炉(国学)、西京宗四郎二有——西京惣四郎二有(国学)——西京宗四郎(茶器)、五徳ナリの天下——五徳(国学)——五徳なしの天下一(箒庵)——五徳ならの天下一(東芸・土屋家・茶器)、休息二有——久怡に有(国学・箒庵)——休息有(土屋家)

一 茶抄 慶首座の流

一 つるへ 堺今市二有 井面桶堺

市町二有

堺今市二有——堺今市（箒庵）、市町二有——市町（箒庵）

一 釣火筋 堺今市弥助

釣火筋——銅火筋（東芸）、堺今市弥助——堺今市町弥助（国学）——堺今市に有 弥助（国図）——堺今市に弥助（箒庵）——茶器にナシ

大方如此歟

大方如此歟——右火力たかくのことし（国学）——箒庵・茶器にナシ

一 茶湯之出立 上に宇治さらしのぬのこ 裏ハせんし 色ハすきく あひにえりおゝひ 袖口かみこ 下二加賀染 道具ノひらき力 初たる所へハ上着の小袖 新キカよし

茶湯之出立——茶湯出立（国学）、裏ハせんし——裏ハ前火茶色（国学）、あひにえりおゝひ——間二襟おゝひ（国学）、下二加賀染——下ニカラそめ 下に紅染（国学）、道具ノひらき力——道具開（国学）——道具開力（国図・箒庵）、初たる所へハ上着の小袖——初而等にハ上着小袖（国学）——初而参所へハ上着の小袖（国図・箒庵）、新キカよし——あたらしきよし（国学）

一 貴人へ行時ハ事依て織色も可然 亭主の出立ハはりふうしやう新敷 いカにもあ力つかぬをキルカ 又貴人ニ行時八十徳小袖何も新キカよし

貴人へ行時ハ事依て——貴人へ行時ハ殊ニより（国学）——貴へハ時によりて（国図・箒庵）、織色も可然——織物可然（国学）、亭主の出立ハ——亭主出立ハ（国学）、はりふうしやう新敷——ハリホウシヤウ新敷（土屋家）、いカにもあ力つかぬをキルカ——いかによし（国学）、又貴人ニ行時八十徳小袖何も新キカよし——す時八十徳小袖 かつかぬをキルカ——いかによし（国学）、又貴人へ行時八十徳小袖何も新キカよし（国図）——又貴人へ行時八十徳小袖何も新キカよし（箒庵）



一 帯 頭布 鼻紙 汗ぬくひニツ

扇 八羅金剛 十徳毎度力吉 但心安所へ八十徳斗 古クテモ不苦 又貴人力始タル所へハかた絹袴毎度新キカよし

汗ぬくひニツ——汗拭イ（国学）——汗拭ニ（国図・箒庵）——汗布。ニツ（茶器）、扇——扇子（国図・箒庵）、八羅金剛——菊こんかう（国学）——わら金剛（土屋家・茶器）、十徳毎度力吉——十徳毎度く新敷力吉（国学・国図・箒庵）——十徳毎度新敷力よし（東芸・土屋家・茶器）、但心安所へ八十徳斗——但心安所へハ八徳斗力よし（国学）——但心安キ所へ十徳斗（国図）——但心易キ所へ八十徳ハかりハ（箒庵）——但心安キ所へ八十徳バカリハ（茶器）、古クテモ不苦——自在柄杓ハ少々古くても不苦（国学）——少々古くとも苦しからず（国図）——少ふるくてもくるしからず（箒庵・東芸・土屋家）、又貴人力始タル所へハかた絹袴毎度新キカよし——又貴人力初而の所へハ新敷力よし 肩衣袴は毎度新敷力よし（国図）——五徳ハふるきカよし（箒庵・国学）——又貴人が始タル所へハ新ガ吉。肩衣袴ハ毎度新キガ吉（茶器）

一 茶巾 茶筌 小板 つるへ 面桶新力吉 自在 柄杓ハ少し古クテモ不苦 五徳ハ古キカよし

（国学・国図・箒庵に右の条項ナシ）

凡古今茶湯名人の名大方注し侍り畢

普光院御代

慈照院御代東山殿御代

同

每阿弥

能阿弥

藝阿弥

同

相阿弥

右四人代々公方様之御同朋也 御繪之外題此衆也 但能阿弥名人也 忠昌藏主天下一の手書也 此仁能阿弥好についで菓子ノ繪ヲ始テ外題多シト也

藝阿弥 同 相阿弥 同 藝阿弥 東山殿 相阿弥 (東芸)、右四人代々公方様御同朋也——右四り代々の公方様御同朋也 (国学)

——右四人代々 公方様御同朋也 (土屋家)、御繪之外題——画の外題 (国学・国図)——御繪之外趣 (土屋家)、但能

阿弥……手書也——東芸にナシ、菓子ノ繪ヲ始テ外題多シト也——菓子ノ繪を初而外題を仕也 (国学)——菓子ノ繪

ヲ初テ外題したるなり (国図)——菓子ノ繪を初而外題い多をしたるなり (箒庵)

一 珠光 奈良皇明寺 山名殿年寄衆 公方御藏 松本珠報 京千本 篠香炉家 京千本 道提

善法 京栗田口 カンチハヘツニテ一世ノ間食ヲモテモスル也 身上茶 胸千レイヤル者トテ 珠光愛 美候

古市幡州 数寄ノ名人 珠光ノ一ノ弟子 名物其数所持 西福院 西郡 珠光跡目 宗珠 下京 宗語 京大島 善好 堺 引拙 名人名物其数ヲ不知 藤田宗理 目利也紹興 初ノ坊主

宗宅 紹滴 花ノ上手 宗理 一世ノ間持人也 紹鷗 堺武野 名人名物 六十色程有 道陳目利 宗達 堺津田 兼主ノ殿ニ 世美人ナリ 宗休 三好豊州 名物其数多シ比外 二数寄者主有ヘシ

関白様此外武士衆ハ不入 大坂二被召置堺衆分 宗易 田中 今井宗久 津田宗及 山上宗二 重宗甫 住吉屋宗無 も

すや宗安 田中紹安 大方百五拾年以来之茶湯者此衆也

珠光……此衆也——開山 奈良皇明寺 珠光 奈良のせうきやうし 一松本しゆふう 瓢箪茶入茶碗兩種を楽む 公方の御秘藏也 香

の家也 山名殿年寄衆 一篠 香炉の家 公方様御藏衆 前八同人也 一道提 京千本四十石の名壺一種所持 一せ

んふう 京栗田口 是ハ爛鍋一ツにて一生の間食をも茶湯をもする也 身ノ上の楽 胸のきれいなるものとして珠光も

褒美のもの也 一古市播州 和州数奇の名人 珠光の一弟子 名物其数所持の人也 三十品斗持 一西福院 南都

三ヶ月所持 一尊行院 小茄子 石菖蒲所持 一宗珠 珠光跡目 一宗二 下京 一善好 京大宮 一因雪 堺名人

名物其数多持人也 一藤田宗利 目利也 紹鷗の初の坊主也 一宗宅 堺刀屋 珠光弟子 一道陳 同北むき 目利

一紹鷗 名人 名物六十斗持人也 一宗利 堺むくのこひたる覚悟一生持人也 一宗達 同つた 臺子飾を一生楽む

人也 一実休 三好豊後守 名物其数多持人也 此外にも数奇者も有ヘシ 関白秀吉公大坂二被召置候堺衆 但武

『山上宗二記』の諸写本の比較研究(四)

士は不入 一宗易 田中 千共 利休事也 一宗久 今井 一宗及 津田天王寺や 一宗二 山の上 一宗甫 重  
 一宗慶 住吉屋 一宗安 鴟屋 一少庵 田中宗易子 大方百五十年己来の茶湯者此衆也（国学）——一珠光 奈良  
 の志やうみやう寺 一松本珠報 山名殿のとしより衆 一篠カウろのいへ 公方様御藏主 一道提 京の千本 一善  
 法 京粟田口 是はかななへ一ツにて一生の間食をも茶湯をもする也 身上のたのしみ 胸のきれいなる者として珠光  
 褒美の人なり 一古市播州 和州 古市播磨守胤栄 数寄の名人 珠光一ノ弟子 名物其数所持の人也 一西福院  
 南都興福寺 一宗珠 珠光の跡目 一宗語 下京 一善好 京大富 一いんせつ 堺 名人名物其数多く持人なり  
 一 ふじ田そう理 目利なり 紹鴎のはしめの坊主なり 一そうたく 堺かなたや 珠光の弟子 一せうてき 堺竹  
 くらや 花の上手 一せうおう 名人也 名物六十色程持人なり 一たうあん 堺北むき めきゝ 一そうり 堺む  
 くの こびたる覚悟一生もつ人なり 一そうたつ 堺津田 臺子のかざりを一生樂しむ人なり 一実休 三好豊後  
 名物其数多し 此外に数寄者も有へし 一関白様 秀吉公の御事 大坂に召おかれ候さかい衆の分 武士は不入  
 一宗易 田中 千ノ共 一実休 今井 一宗及 津田天王寺や 一そうこ 山の上 一そうふ 重 一そうむ 住よ  
 しゃ 一そうあん もすや 一少庵 田中宗易子なり（国図）——一珠光 ならの称名寺 松本珠報 山名殿の年寄衆  
 篠 香炉の家 公方様御藏衆 道提 京千本 善法 京粟田口 是はかななへ一ツにて一生の間食をも茶湯をもする  
 なり 身上の樂ミむねのきれい成者として珠光褒美也 古市幡州 すきの名人 珠光一の弟子 名物其数所持の人な  
 り 西福院 南都 宗珠 珠光の跡目 宗悟 下京 せんカウ 京大富 いんせつ さかい名人 名物其数多持人也  
 藤田宗里 目利者 紹鴎初のふうす也 宗宅 堺かなたや 珠光弟子 道陳 堺北向 目利 宗理 堺掠のこひたる  
 覚悟一生持人 宗達 津田 堺 臺子の莊を一生樂む人也 実休 三好豊後守 名物其数多 此外に数寄者もあるへ  
 し 武士八不入 関白様秀吉ノ御事 大坂に召被置候堺衆ノ分 宗易 田中 千ノ共 宗久 今井 宗及 津田天王

寺屋 宗二 山の上 宗甫 重 宗無 住吉屋 宗安 もすや 少庵 田中 宗易一子也 大方百五十年己来の茶  
 湯者此衆也(籌庵)——珠光奈良聖明寺 山名殿年寄衆 松本珠報公方御藏 篠香炉家京千本 道提京栗田口 善法頼朝一ツニテ一世の間食をも茶湯をもスル 也身上茶胸キレイナル者トテ珠光ホウヒト 古市播州和州 数寄名人  
弟子名物 其数所持 西福院 宗珠珠光跡目 下京 宗語京大島 善好堺 引拙名人名物 其数不知 藤田宗理目利也紹興始坊主 堺金田屋 宗宅紹滴 珠光弟子堺竹藏屋堺ムクノ 宗里ルコヒタ  
一世の間 持人也 紹鷗堺武野 名人名物七十色程 道陳目利堺北向 宗達堺津田 蓮子ノ殿一世 其数不知 善好三好宗良 名物其数多シ 此外二数奇者も有へし 関白様此外武士衆ハ不  
 入 大坂へ被召置候堺衆之分 宗易田中 今井宗久 津田宗及 山上宗二 重宗甫 住吉屋宗無 もすや宗安 田中紹安  
 大方た百五十年來之茶湯ハ此衆也(東芸)——珠光奈良聖明寺 松本珠報山名殿年寄衆 篠香爐家公方御藏 道提京千本 善法京栗田口 善法カンナヘニテ一世ノ間食ヲモ茶湯ヲモスル 也身上茶胸ノキレイ成者トテ珠光ホウヒ候  
和州 古市幡州数寄ノ名人 珠光ノ一ノ弟子名物其数所持 西福院 宗珠珠光跡目 下京 宗語京大島 善好堺 引拙名人名物 其数多シ 藤田宗理目利也紹興 始之坊主 宗宅堺金田屋  
珠光弟子 紹滴堺竹藏屋 花ノ上手 紹鷗堺武野 名人名物六十 道陳目聞堺北向 宗里堺ムクノ コヒタル覚悟 世間持人也 宗達堺津田 蓮子ノ殿一世 其数多シ 善好三好宗良 名物其数多シ 此外二数奇者 有へし 関白様此外武衆ハ不入大坂二候 召置候堺衆  
田中 宗易 今井宗久 津田宗及 山上宗二 重宗甫 住吉屋宗無 もす屋宗安 田中紹安 大方百五拾年以來之茶  
 湯者此衆也(土屋家)

(わたなべ・せいいち 明治大学教授)